

GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2022



THE UNIVERSITY OF TOKYO

Go Global

—もう一度海外に向かって

東京大学理事・副学長 林 香里



2020年春から始まった新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、東京大学の国際交流にも大きな影響をもたらしました。全学交換留学の対面派遣と受入はともに中止となり、各種留学説明会もオンラインで行って来ました。派遣留学についてはようやく一部再開したものの、変異株の影響で先行きは不透明です。対面受入は日本国の入国規制により中止が続いています。キャンパスのグローバル化を願う教員職員一同にとって、まさに苦悩の日々です。もっとも落胆しているのは、海外留学を希望する学生の皆さんでしょう。

異なった生活習慣の体験、新しい友だちづくり、外国語の習熟、さらには興味深い研究テーマの発見など、若いうちの海外留学は、まさにライフ・チェンジング・エクスペリエンス。貴重で一生の宝ものです。これが容易に実現しないのはほんとうに悔しいことです。しかし、ぜひ皆さんには今こそ、この状況から21世紀の世界が直面するさまざまな課題について考えて頂きたいと願っています。パンデミックはなぜ起きるのか、国境とは何か、人やモノの流れを抑制するとはどういうことなのか。この分断された状況下で、他者との対話と共感をいかに実現するか。これまで以上に世界の情報を収集し、いま何が起きているのか、その中で何ができるかを主体的に判断するためのグローバルな知識と感性を磨いてください。

本学はコロナ禍を機にオンラインでの国際交流プログラムを本格的に始めました。安全に、コストをかけず、自宅から世界の学生と交流することができるようになりました。また、安全と健康に配慮しながら、少しずつ海外への渡航も再開しています。私たちは、いま、まさにポスト・コロナ時代の「ニュー・グローバル」の地点に立っています。海外との交流は、今後、さまざまな形でこれまで以上に活発にしていかなければなりません。皆さんがグローバルな舞台へ飛び立つ機会も必ず増えていきます。

東京大学では、2018年4月から全学部学生を対象に「国際総合力認定制度(GGG:Go Global Gateway)」を開始しました。プログラムでは、海外に出かけるだけでなく、東京大学で提供される外国語による授業の履修や、新しい外国語を修学することも、国際総合力のひとつと見なされます。東京大学のキャンパスで行われるたくさんのグローバル活動に参加することも奨励されています。上に触れたオンラインでの学生国際交流に加えて、世界の優れた研究者が参加するオンラインシンポジウムやワークショップもあります。ぜひGGGを通してグローバルな姿勢を身につけてください。

また、東京大学には留学に関する有益な最新情報を提供するためのGo Global ウェブサイト(<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>)もあります。大学が提供するリソースを上手に利用して、グローバルな経験を積んでください。

まだ予断を許さない日々が続きますが、東京大学の学生と教職員が文字通り手を取り合い、多様な世界と向き合い、さまざまな形で心を通わせる「ニュー・グローバル」の時代を築いていきましょう。

CONTENTS

はじめに

—留学・国際交流を成功させるために—

..... p2-4

I 留学・国際交流プログラムの紹介

..... p5-37

1. 留学・国際交流プログラム

(グローバルキャンパス推進本部担当) p6-23

1) 全学交換留学 p6-11

2) UC派遣プログラム p12-13

3) 全学短期派遣プログラム p14-19

4) 国際総合力認定制度(Go Global Gateway)
..... p20-23

2. 留学・国際交流プログラム

(その他のプログラム) p24-37

1) GLP-GEfil東京大学グローバルリーダー育成
プログラム p24

2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・
後期課程「後期国際研修」 p25

3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動
..... p26-27

① 体験活動プログラム p26

② 東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)
..... p27

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム
(UGIP) p28

5) 学内でできる国際体験 p29-32

6) 各学部・研究科の取り組み p33-37

① 学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p33-35

② 各学部・研究科によるプログラム p36-37

II 留学・国際交流関連情報

..... p38-53

0. コロナ禍における各プログラム実施状況
..... p39

1. 情報収集方法 p40-41

2. 留学にかかる費用と奨学金 p42-45

1) 費用と奨学金例 p42-43

2) 支援者からのメッセージ p44-45

3. 留学における学籍・単位認定 p46-47

4. 語学能力検定試験 p48

5. 安全と危機管理 p49

6. 留学と就職活動 p50

7. 卒業後の大学院留学 p51

8. よくある質問 p52-53

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響に関する注意事項

- 2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症にかかる社会情勢のため、本ガイドブックに掲載されている多くのプログラムが影響を受けました。海外や国内、本学キャンパス内で開催予定だったプログラムの多くが、中止またはオンラインでの実施に変更されました。これを受けて、本ガイドブックの学生体験記や写真は、2019年度又はそれ以前に開催したプログラムのもも含まれています。
- 本ガイドブックでは、原則として、平時のプログラム概要を中心に紹介する一方で、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた本ガイドブック作成時点での各プログラムの実施状況を、「II 留学・国際交流関連情報_0. コロナ禍における各プログラム実施状況(p39)」にまとめて掲載します。ただし、最新の状況等を受けて、2022年度の各プログラムの内容や募集・開催方法が、本ガイドブックの情報から大幅に変更される可能性があります。各プログラムの最新情報は、必ず各プログラムのウェブサイト等で確認してください。

はじめに — 留学・国際交流を成功させるために —



計画を立てよう

東京大学の中はもちろん、大学外でも留学・国際交流プログラムを目にする機会がたくさんあると思います。自分がいま、どのようなプログラムに参加したいか、はっきりと決まっていますか？プログラムへ応募する前に、目的やスケジュールをよく考えて計画を立てましょう。

留学経験者の
声を読む



●プログラムに参加する目的は？

プログラムによって、学習内容や活動内容が異なります。「自分の専攻分野に関する知識を深めたい!」「専攻以外の分野を広く学びたい!」「海外で通用する語学力を身につけたい!」等、在学中の限られた期間で何を達成したいのか、自分の目的とプログラムの趣旨を照らし合わせてみましょう。

参考に見よう

留学経験者の声からヒントを得よう

各プログラムのページで内容を確認しよう

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

p20

●プログラムの実施期間・時期は？

1週間の短期プログラムから、1年間海外の大学で勉強する留学等、期間は様々です。また、夏休みなどの休暇を利用したプログラムや、大学内でお昼休みに開催されるプログラム等もあります。自分の授業計画やカリキュラム等と照らし合わせてみましょう。

参考に見よう

各プログラムのページで実施期間・時期を確認しよう

全学交換留学募集サイクル

p6

●自分の予算とプログラム費用は？

プログラムには参加費無料のもの、奨学金付きのもの等もあります。プログラムの要項等から費用を確認しましょう。また、外部団体の奨学金に応募することも可能な場合があります。留学等へ申請する前から応募可能な奨学金もあるため、プログラムの募集スケジュールと奨学金の募集スケジュールをよく確認しましょう。

参考に見よう

各プログラムのページで費用を確認しよう

留学にかかる費用と奨学金

p42



情報を集めよう

自分に適した留学・国際交流プログラムを見つけるために、情報収集はとても大切です。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談等も貴重な情報源です!

●所属学部・研究科で情報を集めよう

各学部・研究科にて、様々な国際交流プログラムや学部・研究科間交換留学等も行われています。各プログラムの情報を集めるだけでなく、留学に際して重要となる単位認定、学籍、授業履修等の相談もおきましょう。

参考に見よう

各学部・研究科の取り組み

p33

留学における学籍・単位認定

p46

●タイムリーに情報を集めよう

どの学部・研究科の学生でも応募することができるグローバルキャンパス推進本部が担当するプログラムの情報やイベント情報等は、「Go Global ウェブサイト」で発信しています。タイムリーに情報が届くSNSも活用して、最新情報を集めるようにしましょう。

Go Global
ウェブサイト
アクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

参考に見よう

情報収集方法

p40

●直接話して相談しよう

春の留学フェア、秋の留学説明会等のイベントに参加してみましょう。様々なプログラムの詳細な情報を得られるだけでなく、留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。



2019年春の留学フェアの様子



応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項等で応募資格・条件を確認しましょう。多くのプログラムで、応募する時点で語学能力等の条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。

●応募資格・条件の例

語学能力

プログラムが定める語学試験を受け、応募する時点で基準に達している必要があります。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。

学業成績

留学プログラムや奨学金の選考では学業成績が考慮される場合がほとんどです。ただし、志望動機・学習計画・面接・語学力等も含めて総合的に選考されるので、積極的にチャレンジしてください!

東京大学への在籍

東京大学が企画するプログラムや東京大学を通じて応募するプログラムの多くで、プログラム期間中を通して東京大学に在学していること、プログラム期間中に卒業・修了しないことを条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

その他

プログラムによって、年齢・学年・専門分野、今までに履修した授業等、細かい条件が定められている場合があります。

参考に見よう

各プログラムのページで条件を確認しよう

語学能力検定試験

p48

どんなプログラムに参加する?

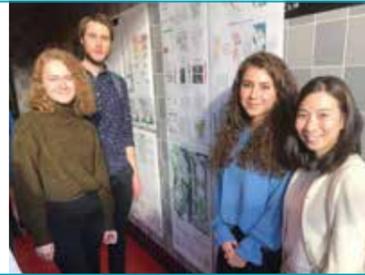
東京大学でできる留学・国際交流プログラムの紹介

東京大学には、数多くの留学・国際交流プログラムがあります。「多すぎてどのプログラムに参加すればいいかわからない……」という方のために、ここではプログラムを目的別に紹介します。対象学生はプログラム・コースごとに異なることがありますので、必ず各プログラムのページ等で確認してください。

★学部前期課程学生対象 ★学部後期課程学生対象 ★大学院学生対象

長期間海外で生活し、現地の大学でしっかり学びたい

- ★★★交換留学 →p6, 33
- ★★★UC派遣 →p12



海外経験もないし語学も苦手…それでもチャレンジしたい

- ★★★全学短期派遣プログラム →p14
- ★★★主題科目「国際研修」 →p25
- ★★★体験活動プログラム →p26



将来グローバルに活躍したい

- ★★★国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) →p20
- ★★★GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム →p24



東京大学のキャンパス内で国際交流・「留学」がしたい

- ★★★国際化教育支援室・グローバルゼンションオフィスの活動 →p29, 30
- ★★★International Lounge →p30
- ★★★スペシャル・イングリッシュ・レッスン (SEL) →p31
- ★★★UTokyo Global Unit Courses →p32



他にもプログラムはたくさんあります。さあ、踏み出そう!

I

留学・国際交流プログラムの紹介 p5-37

1. 留学・国際交流プログラム (グローバルキャンパス推進本部担当) p6-23
 - 1) 全学交換留学 p6-11
 - 2) UC派遣プログラム p12-13
 - 3) 全学短期派遣プログラム p14-19
 - 4) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) p20-23
2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム) p24-37
 - 1) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム p24
 - 2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・後期課程「後期国際研修」 p25
 - 3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動 p26-27
 - ①体験活動プログラム p26
 - ②東大生海外体験プロジェクト (海外企業体験活動) p27
 - 4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム (UGIP) p28
 - 5) 学内でできる国際体験 p29-32
 - 6) 各学部・研究科の取り組み p33-37
 - ①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p33-35
 - ②各学部・研究科によるプログラム p36-37

1. 留学・国際交流プログラム (グローバルキャンパス推進本部担当)

1) 全学交換留学

概要

東京大学と東京大学の協定校(※1)が1学期～1年間学生を交換する留学プログラムを交換留学と呼びます。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。これを大学全体で実施するものが「全学交換留学」であり、各学部・研究科が独自に行うものを「学部・研究科間交換留学」(p33-35参照)と呼びます。全学交換留学へはどの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。

※1 東京大学が学生交流覚書を締結している海外大学のこと。

全学交換留学の詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

留学時期と募集スケジュール

1学期間あるいは1年間が一般的な留学期間です。実際の詳細な留学期間は留学先の協定校の学事暦(Academic Calendar)(※2)に基づきます。1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期からの1年間となりますが、春学期が学事暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学が可能です。

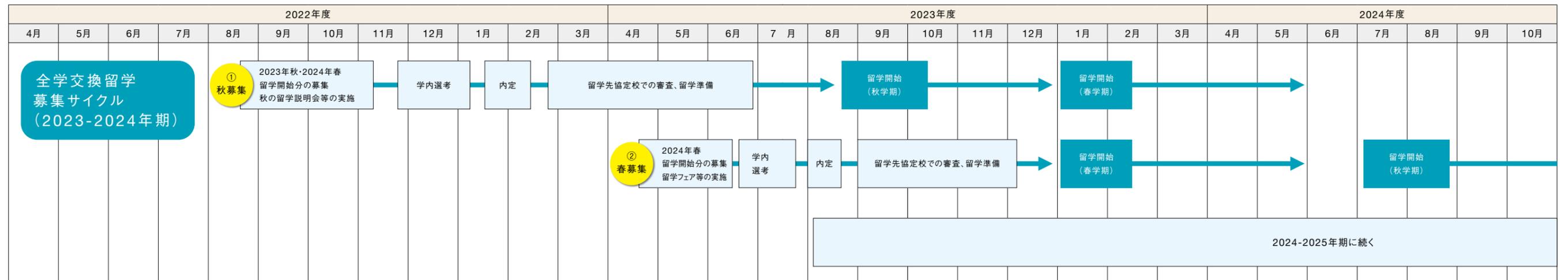
学内募集は年に2回行います。

①秋募集(8～11月頃): 翌年の秋学期留学開始分・翌々年の春学期留学開始分を募集

②春募集(秋募集の翌年の4～6月頃): 翌年の春学期留学開始分を募集(※3)

※2 海外の大学は一般的に1学期目:秋学期(8～10月開始、12月～翌年1月終了)、2学期目:春学期(1～2月開始、4～5月終了)の2学期制が多いです。また、2023年の秋学期(1学期目)～2024年の春学期(2学期目)という海外大学の1学年(Academic Year)を学内募集では2023-2024年度(Academic Year)と呼んでいます。

※3 前年度の秋募集で余った派遣枠および春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。



※本ページの情報は全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

《メリット》

- ①評価の高い協定校への留学
東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。
- ②留学先の協定校では授業料の支払いが不要
留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります(※4)。
- ③協定校では交換留学生として優遇
宿舍を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたり等、特段の配慮をもらえるケースがあります。
- ④留学で取得した単位を互換
協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります(※5)。
- ⑤プログラム付属の奨学金に申請可能(返済不要)
支給額は年度や地域によって異なりますが、月5～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団等が募集する他の奨学金への応募も可能です(p42-43参照)。

《主な資格・条件(一例)》

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者(語学能力、所属学部・研究科、学年等)。

《選考方法》

- ①学内選考(書面・面接審査)
書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。
- ②協定校での審査(書面審査)
学内選考を通過した学生は、協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です!

※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院学生の場合、その活動の実態により「留学」または「研究指導の委託」の手続きを取ることになります。

※5 認定の基準は各学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の所属学部・研究科の担当部署に事前に相談しましょう(p47参照)。

全学交換留学等経験者のインタビューはこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/career-why.html>

全学交換留学協定校一覧

| 国・地域 | 協定校 | 対象 | 2021-2022 派遣実績 (人) |
|---------|--------------------|---------|--------------------|
| 台湾 | 国立陽明交通大学 | 学部/院 | 0 |
| 台湾 | 国立台湾大学 | 学部/院 | 1 |
| 中国 | 上海交通大学 | 学部/院(M) | 0 |
| 中国 | 清華大学 | 学部/院 | 0 |
| 中国 | 浙江大学 | 学部/院 | 0 |
| 中国 | 南開大学 | 学部/院 | 0 |
| 中国 | 南京大學 | 学部 | 0 |
| 中国 | 復旦大学 | 学部 | 0 |
| 中国 | 北京大學 | 学部/院 | 0 |
| 香港 | 香港大学 | 学部/院 | 1 |
| 香港 | 香港科技大学 | 学部 | 0 |
| インドネシア | インドネシア大学 | 学部 | 0 |
| インドネシア | ガジャマダ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| 韓国 | 高麗大学校 | 学部/院(M) | 1 |
| 韓国 | ソウル大学校 | 学部/院 | 5 |
| 韓国 | 浦項工科大学校 | 学部/院 | 0 |
| 韓国 | 延世大学校 | 学部/院 | 1 |
| マレーシア | マラヤ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| フィリピン | フィリピン大学 | 学部/院(M) | 0 |
| シンガポール | シンガポール国立大学 | 学部 | 0 |
| シンガポール | ナンヤン工科大学 | 学部/院 | 0 |
| タイ | チュラロンコン大学 | 学部/院 | 1 |
| ブラジル | サンパウロ大学 | 学部/院 | 0 |
| チリ | チリ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| チリ | チリ・カトリック大学 | 学部/院(M) | 0 |
| メキシコ | エル・コレヒオ・デ・メヒコ | 学部/院 | 0 |
| メキシコ | メキシコ国立自治大学 | 学部/院 | 0 |
| トルコ | ボアジチ(ボスフォラス)大学 | 学部/院 | 0 |
| カナダ | トロント大学 | 学部/院 | 6 |
| カナダ | ビクトリア大学 | 学部 | 0 |
| カナダ | プリティッシュ・コロンビア大学 | 学部/院 | 3 |
| カナダ | マギル大学 | 学部 | 0 |
| 米国 | イェール大学 | 院 | 1 |
| 米国 | イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 | 学部 | 2 |
| 米国 | カリフォルニア大学サンタクルーズ校 | 学部/院 | 1 |
| 米国 | ジョンズ・ホプキンス大学 | 学部 | 0 |
| 米国 | スワースモアカレッジ | 学部 | 0 |
| 米国 | ノースイースタン大学 | 学部 | 2 |
| 米国 | プリンストン大学(学部) | 学部 | 2 |
| 米国 | プリンストン大学(大学院) | 院 | 0 |
| 米国 | ワシントン大学 | 学部 | 0 |
| オーストラリア | アデレード大学 | 学部/院(M) | 0 |
| オーストラリア | オーストラリア国立大学 | 学部 | 0 |
| オーストラリア | クィーンズランド大学 | 学部/院(M) | 0 |
| オーストラリア | シドニー大学 | 学部/院(M) | 0 |
| オーストラリア | ニューサウスウェールズ大学 | 学部/院 | 0 |

※院(M)は修士のみ

| 国・地域 | 協定校 | 対象 | 2021-2022 派遣実績 (人) |
|----------|--------------------------------------|---------|--------------------|
| オーストラリア | メルボルン大学 | 学部/院 | 0 |
| オーストラリア | モナシュ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| ニュージーランド | オークランド大学 | 学部/院(M) | 0 |
| ニュージーランド | オタゴ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| デンマーク | コペンハーゲン大学 | 学部/院(M) | 2 |
| フィンランド | ヘルシンキ大学 | 学部/院(M) | 0 |
| フランス | エコール・ポリテクニーク | 学部/院(M) | 0 |
| フランス | グルノーブル・アルプ大学 | 学部/院(M) | 1 |
| フランス | EHESS(社会科学高等研究院) | 院 | 0 |
| フランス | ストラスブール大学 | 学部/院 | 0 |
| フランス | パリ政治学院 | 学部/院(M) | 3 |
| ドイツ | ケルン大学 | 学部/院 | 1 |
| ドイツ | ベルリン自由大学 | 学部/院 | 1 |
| ドイツ | ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 | 学部/院 | 2 |
| アイルランド | トリニティカレッジ・ダブリン | 学部/院 | 0 |
| アイルランド | ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン | 学部/院 | 0 |
| イタリア | ローマ大学ラ・サピエンツァ | 学部/院 | 1 |
| オランダ | フローニンゲン大学 | 学部/院(M) | 2 |
| オランダ | ライデン大学 | 学部/院(M) | 2 |
| ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 学部/院 | 0 |
| スペイン | マドリッド自治大学 | 学部/院 | 0 |
| スウェーデン | ウプサラ大学 | 学部/院 | 1 |
| スウェーデン | スウェーデン王立工科大学 | 学部/院 | 2 |
| スウェーデン | ストックホルム大学 | 学部/院 | 0 |
| スウェーデン | ルンド大学 | 学部/院(M) | 0 |
| スイス | ジュネーヴ大学 | 学部/院 | 1 |
| スイス | スイス連邦工科大学チューリッヒ | 学部/院 | 9 |
| スイス | チューリッヒ大学 | 学部/院 | 0 |
| 英国 | ウォリック大学 | 学部 | 1 |
| 英国 | エクセター大学 | 学部 | 2 |
| 英国 | グラスゴー大学 | 学部/院(M) | 2 |
| 英国 | サウサンプトン大学 | 学部 | 1 |
| 英国 | シェフィールド大学 | 学部 | 1 |
| 英国 | ダラム大学 | 学部 | 1 |
| 英国 | マンチェスター大学 | 学部 | 1 |
| 英国 | ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン | 学部/院(M) | 2 |
| 英国 | ロンドン大学東洋アフリカ学院 | 学部/院(M) | 0 |
| 英国 | ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス | 学部 | 1 |

※2022年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。※派遣実績には、2022年春学期の派遣予定者を含みます。※過去の詳細な派遣実績等はGo Globalウェブサイト(https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html)に掲載しています。

派遣実績はこちら



全学交換留学 体験記



氏名：大竹 晟佳さん
所属・学年(留学開始時)：農学生命科学研究科修士1年
留学先大学：ルンド大学
留学期間：2019年8月～2020年3月(8ヶ月間)

授業からクラブ活動、パーティーまで全てが自転車20分圏内で完結するキャンパスライフは最高でした！友人全員が近隣に住んでいるため自然と交流の時間も増え、充実した留学生活になりました。

Me tooに甘んじない

①留学を決めたきっかけ

学部生時代に参加した東大のサマープログラムで、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流する楽しさ及び、英語力が足りず自分の考えを伝えきれない歯痒さを感じ、長期留学に行くことを決意しました。

②留学先での勉強内容

自分の研究と関連した生物無機化学の勉強に加え、スウェーデンの持続可能性戦略を多角的な視点から学ぶ講義を履修しました。特に、ゴミ焼却場や環境コンサルティング会社へのフィールドワークでは環境先進国スウェーデンの取り組みや人々の価値観に直接触れることができました。

③留学先を勧める点

フィールドワークや、現地の会社も協働して行うグループプロジェクトなど、現地だからこそ経験できる授業が多くありました。先生からのサポートも手厚く、学習環境が整っていました。また、ルンドはキャンパスタウンで、ほとんどの学生が寮生活をしていることもあり、授業以外の時間も非常に充実していました。

留学開始1週間の時に、初対面の学生に「なんで日本人は鯨を食べるんだ」と突然怒り口調で聞かれた衝撃は忘れません。社会問題へ高い関心を持った人が多く、移民排斥運動やコロナ禍でのアジア人差別など、様々な問題について考えさせられた1年間でした。また、授業でもディスカッションの機会が多かったり、友人とのコミュニケーションでも価値観の違いを埋めるために話し合う必要があったり、オンオフ問わず常に自分の意見を持つこと、発信することが求められていたと思います。自分の考えを理解してもらえないかもという恐怖心や英語が下手という羞恥心を捨て、とにかく積極的になることの大切さを学びました。

| 費用と奨学金 | |
|-----------------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 6万円/月 |
| ・食費 | 3万円/月 |
| ・渡航費 | 20万円 |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 30万円 |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 20万円 |
| ・奨学財団からの奨学金 | 16万円/月 |

全学交換留学 体験記



氏名：米林 拓大さん
所属・学年(留学開始時)：教育学部3年
留学先大学：ガジャマダ大学・政治社会学部
留学期間：2019年8月～2020年3月(8ヶ月間)

ポジティブなことばかり書いたが、(良くも悪くも)日本では考えられないルーズさにより生活に苦労することもある。特に重要な手続きに関しては、先方の対応などに気を揉むことばかりであった。

インドネシアに魅せられて

①留学を決めたきっかけ

海外で興味分野を勉強したいという漠然とした思いは元からあった。インドネシアは留学先としてメジャーでない一方、文化・経済・社会的に興味対象が多く、学生のうちに1年暮らす意義は大きいと考え、留学を決めた。

②留学先での勉強内容

ASEAN経済や宗教社会学など、多岐に渡るクラスを選択した。非常に有意義であった一方で、もう少し基礎的な理論枠組みを日本語できっちり押さえていた方が効果が高かったように思う。インドネシア語にも力を入れ、比較的難度の高いレベルの語学資格を取得することができた。双方とも現在・今後好影響を及ぼしている。

③留学先を勧める点

優秀な(英語も堪能な)学生たちと学ぶことができながらも非常に安価な生活環境であるため、生活費以上の自分の好きな活動にお金を回しやすい。もう少しメタ視点で考えれば、その地域性からかなりニッチな経験が得やすい環境でもあると思う。なんとなくの海外留学に違和感を感じている(自分のような)学生にお勧めである。

留学を振り返ると、「新たな出会い・発見」と「新たな日常」の繰り返しだったように思う。留学当初は、1食50円のご飯(10kg太った)や離島での大自然(高熱発症)、その他生活様式等、日々異文化との出会いに感慨を覚える毎日であった。一方で、そうした異文化さえも新たな日常へ編み直され、暮らしに溶け込みつつある自分にも気付く。外国人であるという異質性からは逃れられないものの、確かに1人の住人としてそこで時間を紡いでいるのだ。中途半端とも形容できるだろう。だが、そんな生き方がもっと肯定されてもいいんじゃないか。何事もバランスである。そんなことを思いながら、コロナで文字通り中途半端に幕を閉じた留学であった。

| 費用と奨学金 | |
|-----------------|---------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 2万円/月 |
| ・食費 | 1.5万円/月 |
| ・渡航費 | 10万円 |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 15万円 |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 8万円 |
| ・プログラム付属の奨学金 | 7万円/月 |



氏名：島山 茉理絵さん
 所属・学年(留学開始時)：文学部4年
 留学先大学：ジュネーヴ大学・文学部
 留学期間：2019年9月～2020年3月(7ヶ月間)

土地柄、ヨーロッパ・アフリカ各国へのアクセスがよく、気軽に旅行することができます。寮での共同生活に疲れたときなど、すぐに飛行機とホテルをとり、観光することでリフレッシュしていました。

多言語に囲まれ、自分を知る。世界を知る。

①留学を決めたきっかけ

大学院進学を目指すにあたって、研究に必要な語学力が不足していると感じ留学を決めました。強制的に習得せざるを得ない環境に身を置くことで、フランス語との距離を縮めるきっかけにしたいと考えました。

②留学先での勉強内容

専攻しているフランス文学の講義と語学学校の授業を並行して受講しました。文学部では講義と演習がセットになった授業が多く、例えば文学理論の授業では、講義で学んだ理論を、演習でその週のうちに実践に移すことができました。それまでとは異なるテキストへのアプローチを体験することができ、大変勉強になりました。

③留学先を勧める点

公用語はフランス語ですが、街を歩いていると、英語やドイツ語、イタリア語など様々な言語が耳に飛び込んできます。それぞれのルーツや関心に従って複数の言語を習得している人が多いので、言語習得の方法についても学ぶことが多い環境でした。日本語を学ぶ学生も多く、互いの言語に対する理解を深めることができます。

たった半年の留学で、語学力が格段に向上するとか、性格が劇的に変化するとかいったことはなかったのですが、自分がどういう人間であるか、どういう社会に生きているのかという問いに対する答えはより明確になったように思います。日本でもスイスでも変わらない部分を見つけたり、日本では気づけなかった一面に出会ったり、言語と思考スタイルが全く異なる人々との交流を通して、自分のアイデンティティを相対的に見つめ直すことができました。違いがあるだけに思うようにいかないことも多いのですが、逆に言えば思いもよらぬ収穫を得るチャンスでもあります。海外での生活に自信がなくても、まずは飛び込んでみるのも一つの選択肢だと思います。

| | | |
|-----------------|---------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 6.5万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | 2万円/月 | |
| ・渡航費 | 30万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 30万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 2万円 | |
| ・奨学財団からの奨学金 | 10万円/月 | |



氏名：水口 隼希さん
 所属・学年(留学開始時)：工学部3年
 留学先大学：コペンハーゲン大学 Humanities
 留学期間：2019年9月～2020年3月(6ヶ月間)

日本語学科のデンマーク人と仲良くなり映画を見に行ったり、料理と一緒に作ったりしました。毎週金曜日はフライデーバーと言い大学全体がバーになり、デンマーク人や留学生の友達ができました!

「異国に棲まう」という経験に伴う逡巡と自身との邂逅

①留学を決めたきっかけ

周囲が就活や講義等で忙しく日本で過ごす中、今後のキャリアや自分の生き方を見つめ直す期間が必要でした。従来の価値観や社会システムと違う環境で生活し、自己内省や価値観の創造をしたく、留学しました。

②留学先での勉強内容

将来世界で働きたかったため、英語でのプレゼンテーション論に関する授業を取りました。また留学先の文化や社会を学ぶため、デンマーク文化や社会の講義に加え、自分の専攻に近い都市形成論の講義を取りましたが、コロナの影響で履修途中で帰国となってしまいました。

③留学先を勧める点

日本に触れる機会がかなり少なく、日本と離れた生活が可能で、「異国に一人自力で棲まう」経験におすすです。つまりアジアや米国西欧等メジャーな外国で感じる、「社会や日常生活に「日本」のワードが出てくる事」がかなり少ないです。また英語をほぼ皆流暢に話せ、クセもないため英語での生活に不自由がないです。

デンマークは良くも悪くも「日本」と触れ合う機会が少なく、日本人留学生と日本語学科のデンマーク人程度しかありません。日本人留学の前例も少ないため、留学手続きや住民手続き等、自分で調べ独りで行くことが多く、外国で自力で生き抜くという経験ができました。逆にいうとその分ストレスも多く、娯楽も少ない国ですが、それを乗り越え、独りで生きることの難しさや自己自身の理解が一層進むと思います。

デンマークでの生活では長期インターン先を見つけ、平日はたった週2～3回の講義と長期インターンの仕事や出張をこなし、週末は友人らと海外旅行やサッカー観戦に行ったり、料理をしたりして楽しみました。

| | | |
|-----------------|----------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 10.6万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | 3万円/月 | |
| ・渡航費 | 21万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 70万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 4万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 8万円/月 | |



氏名：小川 佳織さん
 所属・学年(留学開始時)：経済学部3年
 留学先大学：ワシントン大学
 留学期間：2019年9月～2020年3月(7ヶ月間)

色々な思い出があるのですが、留学中で一番印象に残っているのはシアトルの湖の独特の青さです。長期間生活したからこそ記憶に残るのは、日常的にあった風景なのかもしれません。

主体性が求められる場

①留学を決めたきっかけ

小学生の時から異国での生活に憧れを持っていました。将来外国での仕事を考えていたこともあり、様々な人種が集まる国での人々の共存の仕方や背後にある摩擦について知りたいと考え、アメリカ合衆国に渡航しました。

②留学先での勉強内容

アメリカで学ぶことに価値があるかを基準に、移民、アメリカ政治、戦争と社会の関係など、日本では実体験を持って語られにくい内容に関し、当事者ともディスカッションを行えるような授業を選択しました。移民の授業ではアフリカ系移民の子供のチューターを務めるボランティア活動も行う機会がありました。

③留学先を勧める点

ワシントン大学がある都市、シアトルはアメリカの中でも人種の多様性が感じられる都市である他、マイクロソフトやアマゾンの本社があるなど、テクノロジーの文脈でも有名な都市であり、文系理系両方にとって学びの多い環境が整っています。また、バスで数十分で自然の美しい場所にもアクセスできる住み良い街です。

留学においては自分の既存の価値観の揺らぎをどれだけ経験し、そこから自分がどう成長するかが重要であると考えます。例えば、留学中には自分とは全く異なる考えや、日本では出会うことが少ないような一分野に秀でた人々に出会う可能性があります。そしてそれらの経験は異文化理解だけでなく、自己理解や世界標準で見た時の自分の位置の認識など、進路選択に重要な自分の軸の形成に役立ちます。しかし、機会はただ待っていれば得られるものではなく、獲得には日本で求められるよりも高いレベルの自主性が求められます。今後留学を考えている皆さんはぜひ、自分が留学で何を待たないかを考え行動し、貴重な機会を最大限に生かしてください。

| | | |
|-----------------|--------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 15万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | 3万円/月 | |
| ・渡航費 | 10万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 30万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 10万円 | |
| ・奨学財団からの奨学金 | 22万円/月 | |



氏名：瀬々 祐太さん
 所属・学年(留学開始時)：経済学部3年
 留学先大学：オーストラリア国立大学 College of Business and Economics
 留学期間：2019年7月～2020年3月(8ヶ月間)

オーストラリアでは、日本でできないような旅行ができることも魅力の一つです。留学先の友人とウルルに行ったとき、夜にテントから見上げた星空は、一生忘れないと思います。

多様性の中に生きる

①留学を決めたきっかけ

自分が多様性のある環境に向いているのか、確かめたかったという理由があります。今までは、似た境遇の人が周りに常にいる中で生きてきたので、多様性あふれる環境で自分がどのように振る舞うのか興味がありました。

②留学先での勉強内容

留学先では、専攻である経済学を学んでいました。印象的だったのは、一つの講座につきLectureとTutorialという2つの授業があることです。Lectureとは一般的な講義で、Tutorialでは議論を行うことが多いです。最初は戸惑う部分もありましたが、おかげでスピーキング力はかなり伸びました。

③留学先を勧める点

上述したように、多様性のある環境であることは間違いありません。オーストラリアは移民大国で様々な人種の人々が住んでいるうえ、留学先であるオーストラリア国立大学には、毎年たくさんの留学生が学びに来ます。ジェンダーにも理解があり、様々な性的指向・性自認が受け入れられている印象を受けました。

外国や英語に興味が無い人でも留学という選択肢を持っておくことは大事だと思います。もちろん、留学先ではコミュニケーションは英語で行われますし、否が応でも外国人と接するため、グローバルなことに関心があり、英語力が高い人の方が快適に過ごせるかもしれません。ただ、個人的に思う留学の最大の意義は、自分にフィットする環境を見極めることができることだと思います。言語も違い、友達もいない土地で自分がどう感じるのか、どのように行動するのかを知っておくことで、これからの人生で似た機会が訪れた時に事前に対処ができると思います。これだけ低いコストでこのような体験ができることがなかなかないと思うので、おすすめです。

| | | |
|-----------------|--------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 10万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | 4万円/月 | |
| ・渡航費 | 20万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 30万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 3万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 5万円/月 | |

2) UC派遣プログラム

(カリフォルニア大学バークレー校・デービス校派遣プログラム)

概要

米国カリフォルニア大学(UC)2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年間派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program(AISP)ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program(GSP)ではデービス校で開講されているほぼすべての授業から履修することができ、また、語学コースも実施されています。

《メリット》

交換留学以外の方法で長期の留学が可能です。基本的に授業料等の費用はすべて自己負担となりますが、東京大学や民間財団等の留学用の奨学金に応募することもできます。

《募集・選考スケジュール》

例年3～4月上旬頃に募集を行います。学内選考を通過した学生は、カリフォルニア大学各校へ直接申請を行います。

プログラム詳細

| プログラム名 | 留学時期 | 費用(授業料) | 募集人数 | 語学条件※ |
|--------------------------|--|--------------------------------|------|---|
| カリフォルニア大学 バークレー校 AISP | Fall:8～12月 Spring:1～5月 | 約24,000ドル / Semester(宿泊費込み) | 5名程度 | TOEFL iBT 90 IELTS 7.0 (Academic Module) |
| カリフォルニア大学 デービス校 GSP | Fall:9～12月 Winter:1～3月 Spring:3～6月 | 7,800ドル / Quarter(宿泊費別) | 20名 | TOEFL iBT 61-80 IELTS 6.0-7.0 (Academic Module) |

※TOEFL iBT/IELTSのほか、UCバークレー校ではCambridge Proficiency Exam, Cambridge Certificate of Advanced Englishを、UCデービス校ではTOEFL PBTを受け付けています。また、UCデービス校では保有するスコアによって、取れるコースが異なります。詳細は募集要項を確認してください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-UC.html>



UC派遣 体験記



氏名：上利 真悠子さん
所属・学年(留学開始時)：法学部3年
留学先大学：カリフォルニア大学デービス校
留学期間：2020年1月～2020年6月(6ヶ月間)

学食で隣の人がスマホで大相撲を見て…なんてこともあるくらい日本好きな学生の多いUC Davis。大相撲でもアニメでも、私がいっぱい見たいものがあってよかったと思うこともありました…。

自分の「好き」を追求した夢の留学生活

①留学を決めたきっかけ

卒業後の進路を決める前に、長期留学を経験して視野を広げたいと思い、留学を決めました。

②留学先での勉強内容

学部の縛りなく好きな授業を履修できるプログラムだったため、半分は政治経済系の授業、半分は演劇の授業を受けていました。また、演劇学部の公演にも参加し、1～3月期の公演では効果音オペレーターとして裏方の仕事を、4～6月期の公演ではオーディションに合格してキャストを務めました。

③留学先を勧める点

好きな授業を自由に履修できる点、日本の大学では開講していないような授業もある点がお勧めです。特に芸術系に関心のある学生にとっては感動的な環境かもしれません。また、意外にも日本語を専攻している学生が多く、日本語の授業のチューターを務めれば日本に興味のある学生たちと友達になれる点も良かったです。

自分の「好き」に素直になれた6ヶ月間でした。本当は演劇の授業はあまりたくさん取らないようにしようと思っていたのですが、授業に出てみたらやっぱり楽しくて仕方なくて、気づいたら演劇中心の留学生活になっていました。ずっと日本で英語劇をやってきた私にとって、本場アメリカで英語話者の学生たちと英語で演劇をするというのは夢のような体験でした。6ヶ月間何をしても良い自由な時間と、全く新しい自由な環境を得たことで、自分が本当に好きなことを思いやりやろという気持ちになれたのが良かったです。留学を通じて卒業後の進路についても自分の意志が明確になり、良いタイミングで留学できたなと思います。

| | | |
|-----------------|-------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 9万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | 2万円/月 | |
| ・渡航費 | 20万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 4万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 4万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 5万円/月 | |

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

UC派遣 体験記



氏名：竹内 慧さん
所属・学年(留学開始時)：経済学部3年
留学先大学：カリフォルニア大学バークレー校
留学期間：2019年8月～2020年5月(9ヶ月間)

International Houseという正規生と留学生が混合で住む寮に住んでいましたが、非常にいい環境でした。様々な出自の人が集うため文化交流が活発で、本当に仲良くあります。

未知の環境に飛び込む

①留学を決めたきっかけ

日本で生まれ育った自分にとって海外で生活することは未知の領域でしたが、そこに踏み出すことで人間的にも能力的にも成長できると思ったからです。

②留学先での勉強内容

私は経済学部所属ですが政治学にも興味があったため、アメリカ政治やアジア政治などの授業を履修しました。また、経済学にも関連するような政治経済系の授業、ゲーム理論や定量分析などの授業も履修しました。専門外・専門関連とバランスよく学習するよう留意していました。

③留学先を勧める点

UC Berkeleyは全米No.1と言われる公立大学であり、生徒の意識・レベルは申し分ないです。その上でUC Berkeleyには他の大学にはない非常にリベラルで自由闊達な雰囲気があります。カリフォルニアという土地柄人種の多様性も高く、差別を感じることもほとんどありませんでした。

知的好奇心がある方には留学は間違いなく良い選択だと思います。未知の環境で生活するのは中々にタフであり、日本で当たり前でできていたことができなくなりますが、そのような苦勞も含めて面白いと思えるだけの刺激が間違いなくあります。また、長期休暇には周辺を旅行できるのも良い点です。私は現地の友人とレンタカーでアメリカを南北縦断しました。かなり無茶をした旅行でしたが、今でも鮮明に覚えている良い思い出です。

| | | |
|-----------------|-----------|--------|
| ・家賃/寮費(光熱費含む) | 20万円/月 | 費用と奨学金 |
| ・食費 | (寮費に含まれる) | |
| ・渡航費 | 25万円 | |
| ・娯楽費(旅行等含む) | 40万円 | |
| ・その他(教科書代・保険代等) | 15万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 5万円/月 | |

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

3) 全学短期派遣プログラム (サマー・ウインタープログラム等)

概要

グローバルキャンパス推進本部が実施する、全学短期派遣プログラム(すべての学部・研究科の学生が参加できる可能性がある短期留学プログラム)のメリットは、期間が短いので費用を抑えられる・プログラムによっては付属の奨学金に申請できる・様々な内容や行先のプログラムがある・より長期で専門的な留学の準備になる等があげられます。短期間の留学でも、「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」等、長期的な収穫を得ることができます。

全学短期派遣プログラムには、以下の3種類があります。短期派遣プログラムの多くは募集期間が短く締切が早いものも多いため、TOEFL・IELTS等を予め受験し、スコアを所持しておく、参加可能なプログラムの選択肢が広がります。

グローバルキャンパス推進本部担当サマープログラム

夏季休業期間中に実施されるプログラムです。東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義(語学または特定テーマ)、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は4~5月で、5月下旬頃学内応募締切、6~7月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

グローバルキャンパス推進本部担当ウインタープログラム

春季休業期間中に実施されるプログラムです。サマープログラムと同様に、東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施されます。内容はプログラムにより講義(語学または特定テーマ)、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は9~10月で、10月下旬頃学内応募締切、11~12月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム

上記以外にも、東京大学が加盟する大学連合や、国内外の大学・機関が実施し、東京大学の学生のために参加枠が設定されたプログラムがあります(p16参照)。



グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラム一覧

この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。

各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報および最新情報を参考に参加を検討してください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>



| プログラム名 | 開催地 | 期間 | プログラム費用 (航空賃、食費等は別途自己負担) | 募集人数 | 備考 | |
|------------|---------------------|----------|-----------------------------|-------------------|----------|---------------------------|
| サマープログラム | 上海交通大学★ | 中国 | 約2週間 | 東京大学が負担 | 26名程度 | 語学研修+文化体験+学生交流等 |
| | シェフィールド大学★ | 英国 | 3週間 | 1,265ポンド程度 | 20名程度 | 語学研修+講義等 |
| | ウォーリック大学 | 英国 | 4週間 | 2,396ポンド程度 | 20名程度 | 語学研修+講義+ホームステイ等 |
| | チュラロンコン大学★ | タイ | 2週間 | 11万円 | 15名 | フィールドワーク+講義等 |
| ウインタープログラム | オーストラリア国立大学-東京大学合同★ | オーストラリア | 約2週間 | 東京大学が負担 | 15~20名程度 | 講義+フィールドワーク+学生交流等 |
| | ハワイ大学マノア校 | 米国 | 約1週間 | 東京大学が負担 | 15~20名程度 | 語学研修+文化学習・体験+学生交流+ホームステイ等 |
| | ベルリン自由大学 | ドイツ | 約1~2週間 | 東京大学が負担 | 15~20名程度 | 語学研修+講義+学生交流+フィールドワーク等 |
| | カリフォルニア大学サンディエゴ校★ | 米国 | 2週間 | 3,350米ドル程度 | 30名程度 | 講義+フィールドワーク等 |
| | オタゴ大学★ | ニュージーランド | 3週間 | 2,701ニュージーランドドル程度 | 30名程度 | 語学研修+講義聴講+ホームステイ等 |
| | インドネシア大学★ | インドネシア | 2週間 | 10万円 | 30名程度 | 英語による講義+文化体験等 |
| | 浙江大学★ | 中国 | 2週間 | 6万円 | 30名程度 | 中国語講座+文化体験+学生交流等 |
| | INSA Lyon★ | フランス | 2週間 | 1,550ユーロ | 10名程度 | 講義+フィールドワーク+語学学習等 |

※★印のあるプログラムは、2021年度はオンラインで開催(予定)。

※表の青色部分に記載されているプログラムは国際総合力認定制度(p20-p23参照)が実施するもので、2018年4月以降に前期課程に入学した学部学生、2020年4月以降に学士入学(後期課程)した学部学生のみを対象としています。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム例

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウィンタープログラム以外にも、東京大学の協定校が実施するプログラムや東京大学が加盟する大学連合・国内外の機関が実施し、東京大学の学生向けに参加枠が設定されたプログラム、費用の一部を主催者が負担する海外研修や学生会議等も毎年多数実施されています。この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに、代表的なプログラムを掲載しました。毎年内容が異なるプログラムもありますので、最新情報はGo Global ウェブサイトでご確認ください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>



| プログラム名 | 開催地 | 時期 | プログラム費用 (授業料・宿泊費) | 募集人数 | 募集時期 | |
|---|--|------------|----------------------|----------------------|---------|----------|
| 東京大学の協定校等が実施するプログラム | Berkeley Summer Sessions | 米国 | 5～8月の3～10週間 | コースにより異なる | 30名 | 11月～翌年1月 |
| | UC Davis Global Study Program- Summer Sessions | 米国 | 6～9月の6～12週間 | コースにより異なる | 20名 | 11月～翌年1月 |
| | 香港大学Learn, Live and Intern in China (LLIC) プログラム | 香港 | 6～8月の8週間 | 奨学財団が負担 | 3名 | 1～2月 |
| Deutschkurse- Learn German in Munich | ドイツ | 8月の3週間程度 | 985ユーロ程度 | 5名 | 2～3月 | |
| パリ政治学院 (Sciences Po) European Studies Programme | フランス | 2～3月の4週間程度 | 4,000ユーロ程度 | 7名程度 | 10～11月 | |
| 東京大学が加盟する大学連合等が実施するプログラム | IARU Courses | 加盟大学 | コースにより異なる | コースにより異なる | 各コース若干名 | 12月～翌年2月 |
| | AUA (アジア大学連盟) が実施するプログラム | 加盟大学 | プログラムにより異なる | 留学先大学が一部負担するプログラムも多い | 若干名 | 随時 |

短期プログラム 体験記



氏名：小原 健人さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科一類2年
参加プログラム：European Studies Programme 2020(パリ政治学院)
留学期間：2020年2～3月(約1ヶ月間)

最後の週にブリュッセルでEU官庁の見学の機会があるのも魅力的でした。自分の参加した年は新型コロナウイルス感染症の流行によってキャンセルになってしまったのがとても残念でした。

留学ならではの海外経験～非英語圏という選択肢～

①プログラムを選んだきっかけ

入学前から学部の中に1回は留学したいと考えていました。自分の学問的な関心分野に近く、また所属する部活動と両立できる時期・期間だったのでこのプログラムに決めました。

②プログラムの内容

EUの歴史や制度について概観する必修コースに加え、EUの経済、対外(国際)関係、移民・環境問題に関する3つの選択コースから2つを選んで受講します。任意でフランス語の語学の授業を受けることもできます。

③プログラムを勧める点

期間が1ヶ月なので長期の海外、また留学経験がない方でも参加しやすいプログラムだと思いました。また非英語圏なので、授業でもそれ以外の日常生活面でも英語圏的な価値観を相対化できる点もいいと思いました。

自分は大学入学以前から海外経験が比較的ある方だと思っていましたが、他の学生との相部屋や海外での自炊生活、また不慣れた自習環境等、大学レベルの留学ならではのトラブル・シューティングを経験できたのがこのプログラムを通じて一番新鮮でした。ストレスを感じることも多々ありましたが、それを通じて慣れない環境への適応能力や寛容性を鍛えられたと思いますし、その後より長期の留学を志す自信にもつながりました。また授業は英語でしたが、非英語圏だからこそ得たものも多かったです。初修外国語で履修して以来あまり触れていなかったフランス語でしたが、フランス語の語学の授業と日常的なフランス語会話によって1ヶ月で想像以上にフランス語の運用能力が向上しました。

| | 費用と奨学金 |
|-----------------|--------|
| ・渡航費 | 15万円 |
| ・プログラム費(宿泊費を除く) | 30万円 |
| ・宿泊費 | 18万円 |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 5万円 |
| ・プログラム付属の奨学金 | 10万円 |

短期プログラム 体験記



氏名：前田 珠実さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科一類1年
参加プログラム：インドネシア大学ウインタープログラム(UI-CREATES)
留学期間：2020年2月(約2週間)

現地の日本食人気やK-POP熱、配車アプリの普及は予想以上でした。何より現地学生が非常に親しみやすく親切で、東南アジアの同世代の若者とここまで交流できる機会は貴重だと思いました。

たかが2週間、されど2週間

①プログラムを選んだきっかけ

経済的な成熟度や生活環境の面で日本と似た欧米よりも、成長著しい東南アジアの勢いを感じてみたいと思い参加しました。以前から関心のあった全学交換留学等の長期留学も見据えて、海外経験を積む目的もありました。

②プログラムの内容

ジャカルタ近郊のインドネシア大学で、国際関係または組織行動の授業を受講します。伝統文化体験やASEAN・現地企業訪問、インドネシア赤門会の先輩方との懇談会、バンドンへの小旅行等の授業外活動も豊富です。

③プログラムを勧める点

現地学生のサポートが非常に手厚く、東南アジアは初渡航だった自分でも安心でした。非ネイティブ同士で交流するので完璧な英語は必要なく、むしろ帰国後も英語力を磨き続けるための動機づけとしてもおすすめです。

高層ビルや大型モールが立ち並ぶジャカルタの喧騒と、それとは対照的な郊外のスラム街を目にし、また日本とは比類にならない激しい交通渋滞にも巻き込まれ、経済成長著しい国の多様な側面を垣間見ました。ハラルを実践するイスラムと非イスラムの学生が互いを受け入れ合う、反目とも無頓着とも異なるインドネシア流の多様性の姿が印象に残っています。それは現地の学生・教授・ビジネスパーソンの話から感じた、グローバル化の力を借りて経済成長を目指しつつ、同時に東南アジアの盟主としての大国意識や植民地時代の記憶も強く残す、この国の多面性に通じるものがあると感じました。連日のスパイシーな料理、雨季特有の蒸し暑さ、インドネシアを選んで参加して来ている東京大学の仲間も含め、面白い環境から多くの気づきが得られる楽しい2週間でした。

| | 費用と奨学金 |
|----------------|---------------|
| ・渡航費 | 7.5万円 |
| ・プログラム費 | 10万円 |
| ・宿泊費 | (プログラム費に含まれる) |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 2万円 |
| ・プログラム付属の奨学金 | 0万円 |



氏名：森 かりんさん
所属・学年(プログラム参加時)：経済学部3年
参加プログラム名：カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム
留学期間：2020年2月(約10日間)

週末はたっぷり時間がああり、プログラム内のメンバーとカリフォルニアの様々な観光地に出かけました。現地での思い出もさることながら、帰国後も集まって食事をする等良い関係が続いています。

「海外の大学とは？」を手軽に体験できる、留学への第一歩

①プログラムを選んだきっかけ

アメリカの大学院に進学することを検討しており、向こうでの学生生活を体験してみるために短期留学を探しました。所属していた部活動に支障なく参加できる時期に開催されるプログラムだったため参加を決めました。

②プログラムの内容

東京大学から派遣された留学生だけのクラスが設けられ、毎日2つくらいの講義を受けて英語でディスカッションをしました。留学期間中にはフィールドワークの日程もあり、現地の裁判所を見学しました。

③プログラムを勧める点

講義はこのプログラム用に特別に用意されたもので緊張感があまりないかもしれませんが、大学内の施設も幅広く利用できて現地の学生さんながらの生活を送ることができます。海外大学の体験に適していると思います。

私はこれまで海外経験がなく海外に対する漠然とした不安感がありましたが、2週間の中で自分の英語力でも日常会話レベルならやっていると感じ、出来ること・今後必要なことの区別がはっきりしたことはとても良かったと思います。また、能力面だけでなく食事や生活スタイル等アメリカでの生活面においても話に聞くだけでなく自分の感覚で準備すべきことを確認できました。留学について、悩んでいるなら行って見たほうが早いと思います。わからないことが多いと不安にはなりますが、それは能力不足ではなく単純な経験不足のせいだとわかった時かなり自信がつかますし、次にするべきことも見えてきます。行ってみて「やっぱり違ったな」というのも貴重な経験だと思うので、まずは行動してみることを勧めたいです！

| | | |
|----------------|---------------|-------------------|
| ・渡航費 | 17万円 | 奨 費 学 用 金 と |
| ・プログラム費 | 35万円 | |
| ・宿泊費 | (プログラム費に含まれる) | |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 7.5万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 0万円 | |



氏名：鷺尾 春樹さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科三類1年
参加プログラム名：オタゴ大学ウインタープログラム
留学期間：2020年2～3月(約1ヶ月間)

現地でお会いした日本人のバスガイドさんや土産屋の店員さんから、ワーホリがしやすいため日本人が多く、落とした財布も無事に交番に届く国だと伺い、治安の良さや住みやすさを感じられました。

美しい国での挫折経験

①プログラムを選んだきっかけ

夏のプログラムを経て長期留学を考え始めた折に説明会に参加し、ホームステイなら英語を喋る機会が自ずと増えるだろうと期待したこと、寒い2月に冷え症の身には嬉しい南半球の夏への逃避行でもあったことです。

②プログラムの内容

3週間ホームステイをし、ランゲージセンターで一般的な英語の授業やTOEICまたはIELTS対策講座、さらに東大生向けの特別講義を受けました。また正規課程の学生向けの授業を聴講する機会もいただきました。

③プログラムを勧める点

ホームステイ、南半球、海外の学部授業等、海外経験の多くない人にとってはたくさんの初めてを経験できる場になると思います。また個人的にはニュージーランドの町も自然も日本を除けば世界一美しいと思います。

ホームステイは衝撃の連続でした。バナナ以外の果物はすべて洗わず皮ごと食べる習慣、お弁当の中で存在感の強すぎる生人参、限界まで薄い食パン、洗濯後干すまでに2日放置等、慣れそうで慣れないことばかりでした。また「どこまで頼んでいいのかわからない」という迷いは常にありました。極力ホストファミリーと一緒に行動しようと思いついて、週末は買い物やドライブに連れて行ってもらったりもしましたが、正直3週間最後まで打ち解けた感じはなく、大学で友人や先輩と話す中で客観的に「ホームステイ大失敗してるやつがいる」と言っていたのがしっくり来ました。しかしそのような経験も早いうちにできてよかったと思います。そのおかげで今交換留学の中で多少うまくいかないことがあっても当時を思い出して動じずにいられているのだと思います。

| | | |
|----------------|---------------|-------------------|
| ・渡航費 | 11万円 | 奨 費 学 用 金 と |
| ・プログラム費 | 19万円 | |
| ・宿泊費 | (プログラム費に含まれる) | |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 4万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 7万円 | |



氏名：八尾 佳凜さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部3年
参加プログラム：チュラロンコン大学オンラインサマープログラム
留学期間：2021年8月(約10日間)

タイ人の英語は独特な発音なので、最初は聞き取りに苦労するかもしれませんが、タイ語も非常に習得の難しい言語なので、事前にタイのドラマ等で発音だけでも触れておくことをおすすめします！

オンラインだからできたこと。生のタイに触れる10日間。

①プログラムを選んだきっかけ

秋から1年間留学する予定でしたがコロナ禍で断念せざるを得ず、そうした状況でも国際交流や異文化への学びを深めたいと考えていたところ、ちょうど関心のあったタイに関するプログラムを見つけたため応募しました。

②プログラムの内容

前半1週間は午前中にタイ語の授業、午後はタイ文化に関する講義またはグループワークという構成で、後半1週間は午前も講義がありました。最終日にプレゼンがあり、プログラム外の時間で作業することもあります。

③プログラムを勧める点

独自の仏教観や経済格差等、親日的・仏教国という印象以上のディープなタイを知る良い契機になります。ドラマや料理を通じてタイに興味を持った人は、よりタイに親しむツールを手に入れられることと思います。

私は本プログラム参加前からタイに関心を持っていたのですが、専門家の方々の講義やタイの学生さんとのグループワークを通じて、観光では見えない「生のタイ」の一端に触れられたように思います。特に印象に残っているのは日タイ間交流関係の歴史についての講義で、第二次世界大戦中の駐タイ日本軍に起源を持つ食べ物は今も存在する等意外な関係性を知るとともに、日本や自身を改めて省察する機会を得ることができました。プログラム外の活動に関しては、講義であまり触れなかったポップカルチャーについてタイの学生さんにお話を聞いてみたかったため、LINEでやり取りをしました。こうした気軽なお喋りを通じて交流を深めることができたことから、オンラインプログラムとはいえ自分の工夫次第で得られるものは増やせるのだと実感しました。

| | | |
|-----------------|-----------|-------------------|
| ・渡航費 | 0万円 | 奨 費 学 用 金 と |
| ・プログラム費(宿泊費を除く) | (東京大学が負担) | |
| ・宿泊費 | 0万円 | |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 0万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 0万円 | |



氏名：影山 奈々美さん
所属・学年(プログラム参加時)：教育学研究科修士課程2年
参加プログラム：シェフィールド大学オンラインサマープログラム
留学期間：2021年8月(5日間)

コロナ禍で自宅からの受講でしたが、「せっかくのチャンス！」と5日間は予習復習も頑張りました。すると、寝言で英語を喋っていたそうです…(家族談)。

英語学習のモチベーションを高めた5日間

①プログラムを選んだきっかけ

研究のために英語が必要でしたが、独学で英語を学ぶことの困難さも感じていました。一定期間「英語漬け」になる経験が必要だと思い、第一歩として短期間のプログラムに挑戦しようと思い、応募しました。

②プログラムの内容

1日3時間のうち2時間は固定クラス、1時間は自分の関心に基づいた選択クラスです(私は発音のクラスでした)。基本的にテキストを進めますが、その中で会話や簡単な議論をします。2回ほど講義形式がありました。

③プログラムを勧める点

英語に浸る時間を作る貴重なチャンスなのでお勧めしたいです。今回はオンライン参加でしたが、1日3時間の授業+予習復習で自宅に居ながら英語に浸れました。また、夏季休業を活用できるのもお勧め点です。

5日間という短期間のプログラムで飛躍的に英語力が伸びたというよりも、英語を学ぶモチベーションの高まりこそ私が今回の参加で得たものです。寛大で温かい先生方の元で、安心して、積極的に、そして楽しみながら学びを進めることができました。時に真剣な話題を、時に笑いながらの授業で、「私は英語で会話ができるんだ」と自分に驚きました。また、これまで「私には難しいかな？」と感じていた教材も授業では使用し、最初は戸惑いましたが、挑戦してみると自分には必要だったと気付かされました。今回のプログラムへの参加は私の英語学習の過程の一つですが、今後の学習を方向付ける大きな機会となりました。5日間以上の価値ある経験になりました。今はイギリスへ行って現地で学びたいと考えています！

| | | |
|-----------------|-----------|-------------------|
| ・渡航費 | 0万円 | 奨 費 学 用 金 と |
| ・プログラム費(宿泊費を除く) | (東京大学が負担) | |
| ・宿泊費 | 0万円 | |
| ・その他(娯楽費・保険代等) | 0万円 | |
| ・プログラム付属の奨学金 | 0万円 | |

4) 国際総合力認定制度(Go Global Gateway)

国際総合力認定制度「Go Global Gateway」は、東京大学学部学生の国際的な学習や交流の機会への参加を後押しするものです。東京大学は「世界の多様な人々と共に生き、共に働く力」のことを国際総合力と名付け、大学生活を通じてすべての学生にこの力を伸ばしてもらいたいと考えています。本制度では参加学生のみなさんが国際総合力を身につけるためにどのような学びや体験が必要かを考え、行動に移し、所定の条件を満たした場合、国際総合力を身につけたものとして認定証を授与しています。「Go Global Gateway」は単なる語学の堪能さや表層的な外国理解ではなく、異文化や他者について深く考える教養と洞察力を身につけるきっかけとなるものです。本制度を通してみなさんが国際感覚を養い、活躍の場を広げられることを願っています。



対象者：2018年4月以降に前期課程に入学した学部学生および2020年4月以降に学士入学(後期課程)した学部学生



国際総合力を構成する5つの要素

「国際総合力」は左の図の5つの要素から構成されます。みなさんには、在学中に5つの要素をバランスよく身につけて、世界の多様な人々と共に生き、共に働く人へと成長していただきたいと思います。

Go Global Gatewayのポイント

- ★登録に際して外国語能力要件を設けていません。
- ★参加学生の主体性を尊重するものであり、個人の能力に対して優劣をつけるものでも、単位として認定されるものでもありません。
- ★学内外・国内外における様々な活動への参加が認定の対象となります。
- ★自分だけのポートフォリオ(活動履歴)を作成することができます。
- ★認定証を大学院進学や就職活動の際に活用することができます。
- ★語学検定試験(IELTS、TOEFL iBT等)の受験料が補助されます。
- ★短期海外留学プログラムを実施しています。
- ★認定者限定のイベントやプログラムを開催しています!



東京大学国際総合力認定制度のウェブサイトへアクセス

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/index.html>

認定までの流れ

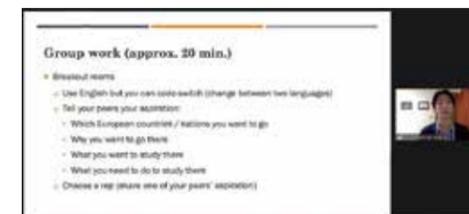
| | |
|-----|---|
| I | Go Global Statementを提出しよう 在学中にどのようなことに挑戦し国際総合力を身につけたいか、目標を設定しよう。 |
| II | アクティビティに取り組もう Go Global Gatewayの認定対象となる4つのカテゴリーのうち、3つ以上のアクティビティに取り組もう。 |
| III | ポートフォリオを作ろう アクティビティ参加後はレポートを提出し、自分だけのポートフォリオを作ろう。 |
| IV | 認定申請レポートを提出しよう 4つのうち3つ以上のカテゴリーのアクティビティレポートが承認されたら、認定申請レポートを提出しよう。 |

Go Global Gatewayの4つのアクティビティ

| | |
|---|--|
| 1. 外国語学修 | 2. 授業・コース |
| <ul style="list-style-type: none"> ・外国語に関する前期課程修了要件の必要単位(基礎科目の外国語および総合科目L系列)の取得(必須) ・第三外国語科目の単位取得 | <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学で行われる講義の単位取得 ・MOOCsの修了 ・サマープログラムやウインタープログラム等の修了 |
| 3. 海外経験 | 4. 国際交流活動 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・留学プログラムの修了 ・ボランティア、フィールドワーク、インターンシップ等 | <ul style="list-style-type: none"> ・母語以外で開催される講演会やイベントへの参加 ・国際交流イベントの運営や企画 ・日本国外で行われる東京大学のPR活動参加、協力 ・その他ボランティア、インターンシップ等国内で行われ国際交流活動と認められるもの |

Go Global Gatewayが主催するイベント・プログラム

留学経験のある先輩方や留学生、国際的に活躍する方々を招いた講演会や交流会



オンラインワークショップや映画上映会、海外大学の学生との交流イベント



氏名：佐伯 洸武さん
所属・学年：法学部4年
認定証取得年：2020年

世界に触れ、自分を開く

①Go Global Gatewayへの参加を決めた理由

大学に入るにあたり、高校と比べ自分が触られる世界が大きく広がるのを感じ、国際活動に積極的に取り組もうと考えていました。そんななか、様々な機会が開かれるだけでなく、自らの成長を記録できるGo Global Gatewayに魅力を感じ、参加を決めました。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

歴史認識問題が大きく取り上げられていた大学2年次の夏に2つの短期留学に参加し、ソウルと上海を訪れました。ソウルでは歴史認識問題が韓国でどのように見られているのか考えもしなかった自らの認識の甘さを思い知り、ソウル大学の学生との交流などを通じて様々な視点から問題を見ることの大切さを学びました。その1ヶ月後の上海ではパネルディスカッションのパネラーに選ばれ、歴史認識問題に関してソウルでの学びを踏まえたくえで多様な視点から自分の意見を述べることができました。多様な視点を身につけ、成長できた経験として印象に残っています。

③認定証の活用について

認定証は自分が大学在籍中に抱いた思いを振り返るものとして活用しています。制度加入時の自分の思いや、アクティビティに取り組んだ際に感じたことなど、今読むと当時のことを克明に思い出することができます。また、就活においても企業に対して自分の大学での活動を証明できる書類として重宝しました。



氏名：徳永 紗英さん
所属・学年：教養学部3年
参加プログラム：ベルリン自由大学インタープログラム(2019年度)

「当たり前」を相対化する、ドイツの人々との交流

①プログラムへの参加を決めた理由

プログラムの大テーマとして掲げられたジェンダー問題を始めとする、政治・歴史・多様性などの社会の諸問題について、異文化に身を置いて現地の人々と議論しながら学ぶことで、日本での「当たり前」を問い直したいと思い応募しました。ドイツ語は未習でしたが、レベル別のドイツ語学習の授業がある点も魅力的でした。

②プログラムの内容

平日の午前中は、ベルリン自由大学の教員によるドイツ社会についての授業やレベル別のドイツ語の授業を受講しました。午後はフィールドツアーや関連施設への訪問など、よりアクティブな形式での学習を行うことが多かったです。放課後や休日は、街へ出て博物館等を訪れ、ドイツ文化を肌で感じました。そして、最終日には2週間の学びの総括として、英語でプレゼンテーションを行いました。また、プログラムを通じて現地の学生と交流することができました。

③プログラムを勧める理由

プログラムでは、毎朝固いパンとチーズを食べ、電車に乗って通学したりするなかでドイツの当たり前の日常に溶け込んでいきました。また、他方で強制収容所のあった地を訪れた際には衝撃を受け、その絶え間ない日常と非日常との交錯を通じて多くの学びを得ました。更に、そのなかで湧き起こる思いや疑問について、現地の学生と意見を交わし、学びを深めることができました。特に、現地の学生とは授業中のみならず、放課後もベルリンの街を案内してもらったりなど、濃密な時間を過ごしました。同年代の学生との交流も含めた学びは、旅行では味わえない、大学のプログラムならではの魅力でした。



氏名：上田 萌加さん
所属・学年：教養学部理科二類2年
認定証取得年：2021年

身近な国際交流から、世界も自分も知る機会に

①Go Global Gatewayへの参加を決めた理由

国際交流の経験を積む手段として活用したいと考えたからです。Go Global Gatewayが掲げている国際総合力に共感し、主体的に考えて取り組む中で磨いていきたいスキルだと感じました。情報収集・きっかけ作り・レポートに残していくことが可能といった点に魅力を感じ、参加を決めました。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

夏休みのGo Global Gatewayのオンライン英会話のプログラムとオリンピックボランティアの活動が印象的でした。認定のために取り組んだ活動ではありませんでしたが、小さな活動も記録するよう心がけていました。

英会話では、コロナ禍で海外に行けない中でも毎日スピーキングを練習しながら世界を知ることができました。また、ボランティアでは、英語を使って関係者をおもてなしする活動内容で、チームメンバーからの刺激も大きかったです。活動前のゴールと活動後の達成度を振り返り、自分の学びを言語化することで、自分を見つめ直し、目標をアップデートし続けることができます。

③今後取り組みたいこと、認定証をどのように活用していきたいか

認定証取得の過程で、自分を振り返る機会となったので、今後も目標を持って行動する際に、客観的な自己分析を習慣化していきたいです。そうすることで、国際総合力を生かして交換留学などでの目標達成を最大化したり、それらの経験を国際総合力の向上に還元したりできると思っています。認定証は、大学時代に取り組んだ国際的な活動をまとめるツールとして活用し、ポートフォリオの更新も続けていきたいと考えています。



氏名：柴崎 珠羽さん
所属・学年：教養学部理科二類1年
参加プログラム：上海交通大学オンラインサマープログラム(2021年度)

国際寮の小部屋から海を超えて中国へ

①プログラムへの参加を決めた理由

東京大学へ入学してやりたいことの1つが、「世界の多様性を体当たりで感じてみる」ことでした。ところが、コロナ禍での活動制限は長引き、国内の移動ですら不自由な生活に私は落胆するばかりでした。しかし、「この貴重な1年を無駄にしたくない」、「主体的に今できることにチャレンジしよう」、そして「不完全燃焼になっていた中国語を学び直そう」と決心し、このプログラムへの参加を決めました。

②プログラムの内容

午前中は習熟度別の中国語の授業を受講しました。授業中は、上海交通大学の学生がアシスタントとして発音等の指導をしてくれました。自由テーマでの中国語によるプレゼンテーションにも挑戦しました。午後は、専門的な学問領域について英語論文を読み、教授からの基礎的な講義を受けたうえで、英語でのディスカッションを行う学術交流セッションに参加しました。最終的にはグループごとに1つのテーマに沿ってプレゼンテーションを行いました。私は、非線型計算を用いた光ニューラルネットワークについての電気電子工学分野のグループに所属しました。また、中国文化を知るワークショップや、国際機関や現地の民間企業に勤務する方による講演会も行われました。

③プログラムを勧める理由

このプログラムでは、英語だけでなく中国語も使用しました。常に必要性を感じながら短期集中で語学学習できる環境は、私にはとても刺激的で大いに学習意欲をかき立ててくれました。新しい外国語を修学したい方におすすめです。英語に中国語、そして上海交通大学の学生が使う日本語を駆使した専門的なディスカッションや多様な文化交流では、多少のタフさが求められます。しかし、現地の学生との協働には充足感で胸が熱くなると共に、自国日本を知る必要性を実感させられました。また、毎晩遅くまで授業や最終課題であるプレゼンテーションの準備に追われますが、乗り越えた後に仲間と達成感を共有したことは忘れられないものとなり、大きな自信になりました。

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム)

1) GLP-GEFIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム

GLP-GEFIL (Global Education for Innovation and Leadership) は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEFILでは、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金(地域、期間等に応じて最高100万円まで)を支給します。



第7期履修生認定式&オリエンテーションの様子 (Nov. 2021)

GLP-GEFILは、語学力や意欲等により選ばれた学生が履修できます。学部2年生(PEAK学生は1年生)を対象に、年度に1回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

[GLP-GEFILウェブサイト] <http://www.glp.u-tokyo.ac.jp>
[facebook] <https://www.facebook.com/Utokyo-Glp-Gefil-東京大学グローバルリーダー育成プログラム-589069901189419/>

GLP-GEFIL 海外プログラム留学先例 (2022年度予定)

| プログラム名 | 開催地 | 期間 |
|---|--------|---------|
| Nanyang Technological University, Singapore | シンガポール | 6~7月7週間 |
| Stanford Summer International Honors Program (SSIHP) | 米国 | 6~8月8週間 |
| Harvard Summer School | 米国 | 6~8月7週間 |
| Yale Summer School | 米国 | 5~8月5週間 |
| University of British Columbia, Vancouver Summer School | カナダ | 6~8月4週間 |
| Pembroke Cambridge Summer Programme | 英国 | 7~8月6週間 |
| LSE Summer School | 英国 | 6~8月8週間 |
| Oxford: International Politics Summer School | 英国 | 8月2週間 |
| University College London | 英国 | 7~8月6週間 |
| Geneva Graduate Institute Summer Programme | スイス | 6~8月4週間 |
| Ludwig Maximilian University of Munich | ドイツ | 7~8月4週間 |
| RWTH Aachen University Engineering Summer School | ドイツ | 6~8月4週間 |
| Aalto University Summer School, Finland | フィンランド | 8月3週間 |
| Sciences Po Summer School | フランス | 6~7月8週間 |
| Leiden University Summer Schools | オランダ | 6~7月4週間 |

※上記はGEFIL履修生を対象として2022年度に提供予定の海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.glp.u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/>

GLP-GEFILの概要

- GEFIL実践研究:** 学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。
- GEFIL海外プログラム:** 3年次および4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
- グローバルリーダー講義:** 世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義とワークショップです。
- GEFIL共通講義:** GLP-GEFILの主幹メンターによるインタラクティブなオムニバス講義です。グローバルな課題に取り組むためのアカデミック・スキルの獲得を目指します。



協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。

株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、江崎グリコ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン、住友商事株式会社、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、ソニーグループ株式会社、ソラミツ株式会社、武田薬品工業株式会社、公益財団法人Tazaki財団**、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本調剤株式会社、野村證券株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL(2022年4月現在)

*住友商事株式会社は、東京大学GLPリーディング・パートナーです。

**公益財団法人Tazaki財団は東京大学GLPに委託型奨学金支給を行っています。

GLP-GEFIL
ウェブサイトに
アクセス



2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・ 後期課程「後期国際研修」

主題科目「国際研修」および「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、(1)海外教育機関との共同プログラム、(2)現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、(3)海外の学生との合同国内研修等様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位(通常2単位)として認定されます。

本授業の多くは、6~9月中旬、1月末~3月に実施されますが、セメスター期間に日本にて実施する国際研修や、渡航前に、通常のセメスター/ターム中に事前講義を実施する場合があります。

「国際研修」「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。

なお、授業によっては、参加者の選抜を行ったり、ある水準以上の語学力、専門性を求めたりする場合があります。学生が負担する費用や奨学金の有無等は、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、ガイダンスで説明を受けてください。ガイダンスはA/Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komabaのウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

Global Komabaのウェブサイトにアクセス



<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/program/globalpraxis/#>

「国際研修」「後期国際研修」過去の実施例 (*2021年A2ターム日本にて代替研修実施)

| 講義題目 | 研修地 |
|---|-----------------|
| UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa | 日本 |
| 国際研修(中国語サマースクール)・上級中国語北京研修* | 中国・日本 |
| ソウル大学校韓国語研修サマープログラム・韓国朝鮮事情の理解と交流* | 韓国 |
| 実践的国際人権法・人道法入門* | スイス |
| TLPドイツ語夏季研修* | ドイツ |
| イタリアで考古学を体験する | イタリア |
| TLPフランス語夏季/春季研修* | フランス |
| 平和のために東大生ができること* | カザフスタン/トルクメニスタン |
| 変容するメキシコと日本 | メキシコ |
| 多文化共生社会の課題を英語で学ぶオーストラリア研修* | オーストラリア |
| 中国語トライリンガルプログラム生向け台湾研修* | 台湾 |
| 日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習 | 日本 |

※上記の授業の開講は年度によって変更される場合があります。

日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習(2021年Aセメスター実施)

新型コロナウイルスの拡大により、海外渡航型の国際研修の実施が困難な中、様々な代替研修が提供されています。2021年度は新たな試みとして、普段授業等で接することの少ない留学生(日本国内外に滞在)、PEAK(教養学部英語コース)受講生と日本人学生が、共に日本文化の歴史的経緯、変容や発展を学び、自文化および多文化理解を深め、文化交流する体験型授業を開講しました。異なる言語・文化背景を持つ15名の学生(1~4年生、うち4名が中国人留学生、3名のPEAK生、8名の日本人学生)が、英語でオンラインと対面のハイブリックスにて、駒場、東京都内、埼玉県、京都府、北海道等の美術館・博物館・工芸の工房等で実施されている授業に参加しました。

※写真は2021年12月10~11日に実施した北海道アイヌ民族について学ぶ文化体験研修より
写真撮影: 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 平取町アイヌ工芸伝承館ウレシバ 国立アイヌ民族博物館



3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動

① 体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生および大学院学生のみなさんがこれまでの生活と異なる文化・価値観に触れ、新しい考え方を身に付けることを目指したプログラムです。奨励金の支給等による経済的な支援があり、みなさん自身もプログラムの企画・実施に携わることができます。

これまで、海外で働くOB・OG訪問等の国際・就労体験、院内学級における学習支援等のボランティア、北海道の農場・牧場作業等の農林水産業・地域体験、学内研究室での研究体験等、正課授業では経験することが難しいさまざまな機会を提供しています。海外で実施する国際交流体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に1週間～1ヶ月程度活動するものです。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラム、過去に行われたプログラム報告書については体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



国際交流 体験活動プログラム一覧(2021年度※オンラインにて代替実施)

| 主な活動場所 | 時期 | 期間 | プログラム名(通称) |
|-------------------------|------|------|---|
| 中国(北京・上海) | 3月 | 10日 | 中国訪問+キャンパスツアーと学生交流 |
| シンガポール | 2-3月 | 9日 | シンガポールでビジネスを学んでみよう |
| スリランカ | 8月 | 5日 | スリランカでSDGsフィールドワーク体験“SDGs Field work experience in Sri Lanka” |
| 英国(オクスフォード) | 8月 | 1ヶ月 | TOPS2021(Tokyo Oxford Programme of Summer 2021) |
| 英国(ロンドン等) | 2月 | 5日 | 英国ロンドン、海外で働くとは |
| スウェーデン | 1-2月 | 5回 | スウェーデン王立工科大学(KTH)での体験活動 日本語授業サポートと企業訪問 |
| サウジアラビア(リヤド) | 2-3月 | 9日 | サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動 |
| アラブ首長国連邦・アブダビ首長国・ドバイ首長国 | 3月 | 11日 | アラブ首長国連邦の「いま」 |
| 米国(ケンブリッジ) | 8月 | 5日程度 | GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT |
| 米国(シカゴ・ワシントンDC) | 8月 | 5日 | アメリカで仕事をするの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう |
| 米国(ニューヨーク・ソルトレイク・デルタ) | 3月 | 9日 | 米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動 |
| 米国(ニューヨーク) | 9月 | 7日 | グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方 |
| カナダ | 8-9月 | 4日 | Discovering Japanese-Canadian Nikkei Identity & Culture: Past & Present |
| 東京(JICA東京センター) | 9月 | 5日 | JICAの国内研修現場で国際協力を知る |

※上記プログラムは2021年12月現在のものです。実施調整中のものもあります。また2022年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、およびウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけでなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験等、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。



①Systems Method Experience at MIT ②米国 ニューイングランド有機農場
③中国・海南島の自然保護区管理 ④アラブ首長国連邦

●SNS上にて、修了生の体験記事を連載記事にして掲載しています。こちらも併せてご参照ください。

【Twitter】
<https://twitter.com/Utokyoitaiken>
【Facebook】
<https://www.facebook.com/199334930268654/>

※学生の所属は、活動当時のものです。

体験活動プログラム参加者の声

パークレー市、ソルトレイクシティ、デルタ市に10日間程度滞在し、UCパークレー校、ユタ大学、デルタ市の宇宙線センターやサイオン国立公園へ訪問しました。大学訪問では学科の授業や特別講義、研究室見学によって、アメリカ中西部の州立大学の規模の大きさ、研究施設の充実ぶりを実感しました。またユタ州で働く日本人や日系アメリカ人との交流、デルタ市の日系アメリカ人の収容所跡への訪問を通して未だにユタ州に存在する“日本”の存在を感じました。デルタ市では宇宙線研究施設のスケールの大きさに驚くとともに、地面に寝転がって満天の星空を見たことも良い経験となりました。



米国ソルトレイクシティおよび近郊における国際交流・研究体験活動
教養学部理科2類2年 木本 直希さん

② 東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)

「海外企業体験プロジェクト」は、経済界等で活躍する卒業生が、「留学する環境に恵まれた一部の学生だけでなく、より多くの学生に、積極的に海外体験をしてほしい」という理念により、自発的に寄附募集活動を進めている「東大生海外体験プロジェクト」の支援を受けた活動の一つです。

学部前期・後期課程の学生を対象とし、海外のオフィスや、海外で活躍する日本人の業務を実際に間近で見ることで、人生のグローバルキャリア形成を考えるきっかけとなるプログラムを実施しています。

活動場所は米国、ヨーロッパ。世界各国にオフィスを構える日系企業で、多様な業務(マーケティング、システムデザインマネジメント、法務等)の体験を通して自分の専門知識やスキルを試す機会もあります。

この夏、海外の企業に飛び込んで視野を広げてみませんか。

以下は2019年度の実施内容です。2022年度の実施内容については、ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h001.html>



●海外企業体験プロジェクト プログラム一覧

GROHE AG(ドイツ) 9月(2週間)/Rakuten USA, Inc.(米国) 8月(9日間)

●応募締切・活動実施時期

応募締切:5月中旬(4月中旬からウェブサイト上で募集開始)/活動時期:8～9月の1～2週間程度

●協力

株式会社LIXIL、楽天株式会社、東京大学基金「東大生海外体験プロジェクト」

●参加者への経済的支援

往復渡航費、現地宿泊費、現地移動費等一人あたり上限50万円 ※航空券、宿泊施設は大学で指定します。

卒業生による寄附募集活動「東大生海外体験プロジェクト」による寄附金を原資に、活動に関する経済的な支援が行われます。

海外企業体験プロジェクト参加者の声

GROHE AG(ドイツ)

教養学部3年 森岡 桃子さん
デュッセルドルフにあるGROHE AG本社の人事部にて、現地の労働者組織「Workers council」の調査を行いました。社員の方とのインタビューを中心に、工場見学や研修制度への参加など様々なことに取り組ませて頂いたり、休日には旅行に行ったりと充実した2週間でした。楽しいことばかりではなく苦しかったことも沢山あります。社員の方と英語でのコミュニケーションが上手くとれなかった日の帰り道、悔しくて泣きながら歩いたことは一生忘れません。2度と体験できないような思い出、尊敬できる方々との出会い、自分の「殻」を破るきっかけくれた大切なプログラムになりました。



Rakuten USA, Inc.(米国) (Project1: EC経営戦略業務の体験)

教養学部文科3類2年 福島 海さん
Rakuten USAの経営戦略本部にてEC市場の拡大施策を学び、実際の社内会議にも参加させて頂き、多くの社員の方々と交流する機会を頂きました。将来のキャリアを考える上で、数多くの社会人と交流を重ね、ビジネスの現場を目で確かめ、肌で体感する、という経験は非常に肝要です。今回のプログラムは舞台が海外であり、日本企業とも異なる貴重な体験をさせて頂きました。3・4年生はもちろんのこと、就職活動が本格化する前の1・2年生には是非参加し、キャリアの選択肢を広く持つきっかけにしてほしいと思います。



Rakuten USA, Inc.(米国) (Project2: 米国企業内法務の体験)

法学部3年 新倉 仁美さん
Rakuten USAでの企業体験では、現代のビジネスに対する理解を深め、また日本の社会を相対的に捉えることができ、貴重な経験となりました。体験の内容としては、配属された内部監査部に普段の業務を実際に体験したり、10以上の異なる部署の方々にインタビューをしたりしました。内部監査部という会社のガバナンスを担う部署から、会社全体を俯瞰して見ることができ、今世界を動かしているIT企業がどのように価値を生み出し、どのような課題を抱えているのか理解することができました。将来社会に出る上で、社会・世界に対する視点をより豊かにしてくれたと感じています。



※学生の所属は、活動当時のものです。

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)

東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)は、2019年度、世界で活躍できるグローバル人材の育成のため、ビジネスの最前線を体感できるプログラムとしてスタートしました。2021年度現在、ダイキン工業株式会社・ソフトバンク株式会社(およびそのグループ会社)の2つが受入先となっています。ただし現在は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、オンライン/国内での代替、短期ワークショップ等の企画を含め柔軟に変更して実施しています。

2022年度においても、外務省の渡航安全情報等により、内容やスケジュールを変更する可能性があります。また、今後、新たな受入先企業が追加される可能性があり、その際にも内容やスケジュールが異なる場合があります。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/ugip.html>

情報については変更される場合があります。
必ず事前説明会、ウェブサイトにて、今年度実施するプログラムや最新情報を確認してください



●応募資格(抜粋)

- ・学部または大学院修士課程の学生
- ・テーマの達成に向けて意欲を持って取り組めること
- ・ルール遵守の行動ができること
- ・成果報告会を含め全活動に参加できること

●参加者への経済的支援

本プログラムの活動中、現地活動における渡航費・宿泊費・交通費等についてはサポートさせていただく場合があります。



プログラム参加者の声

- ・ビジネスの最前線の海外オフィスで実際にインターンするという貴重な体験を通じて、非常に多くのことを学べた。
- ・とても有意義な経験になった。東京大学の海外プログラムに参加するのは初めてではなかったが、このプログラムはより実践的で、他のプログラムとは一線を画していると感じる。
- ・異なる文化、異なる意見をもつ多くの方々との交流できたことは自分の視野を広げる糧となった。また、オフィス内で考えただけのアイデアは実際の現場では受け入れられない点が多く、現場とのつながりを大切にすることがあるという実体験を積むこともできた。

SNS上にて、修了生の体験記事を連載記事にして掲載しています。こちら併せてご参照ください。

【Twitter】<https://twitter.com/Utokyotaiken>

【Facebook】<https://www.facebook.com/199334930268654/>

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|------------|-------|---------|-------------------|---------------|----|------|----------------|
| 実施の流れ(※一例) | 事前説明会 | 参加申請書提出 | 書類選考・面接 合格者説明会 | 渡航準備 事前学習会 | | 現地活動 | 成果報告会 報告書提出 |

5) 学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約4,500名の留学生在が学んでいます。留学の準備や国際交流の機会として、キャンパス内での国際体験を活用しましょう。以下に一例を紹介します。

国際化教育支援室による国際交流活動の例

グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室では、様々な国際交流活動を実施しています。

(1) 本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室では言語交換プログラム、中国語茶話会、日本語による一対一交流等を実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html>



(2) 駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、ダンス・スポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場IIキャンパスでは、毎週火曜日に国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。詳細はGlobal Komabaのウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちら



<http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



(3) 柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を始め、日本人構成員と外国人構成員が学び合うためのイベントを定期的に行っています。また、英語学習支援として、英会話講座や英語相談オフィスアワー、英語論文執筆のためのワークショップ等、様々なプログラムを提供しています。詳細は以下よりご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html>



International Lounge (IL)

ILは、工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門が主催する多文化国際交流の場です。学期中の毎週金曜日12:10~13:10に、工学部11号館の2階で開催されます。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が集まって、持ってきたランチを食べながら、リラックスした雰囲気の中で専門や国を超えて交流しています。趣味の話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも気軽にしゃべりを楽しんでください。年に数回、ハロウィンやクリスマス等の楽しいイベントも開催しています。英語、日本語、その他の言語で語り合いながら友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に会おうチャンスです！本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流をしてみませんか。参加登録は必要ありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。スケジュールや開催地などは、右側のURLからご確認ください。



Facebookにアクセス



<https://www.facebook.com/groups/423122758435246/>
<https://www.jlce.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/icyou/>
<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/il.html>

グローバルゼーションオフィス(総合文化研究科・教養学部)

グローバルゼーションオフィスでは、駒場キャンパスで学ぶみなさんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の三つです。

様々な国と地域について広く見識を深めたい学生には、毎年数回在京大使館員や海外出身の教員が各国事情を語るカジュアルな講演会やセミナーを開催しています。

国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が共に参加できる交流型イベントを開催しています。

もっと主体的に、留学生と関わりたい学生は、英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートするGO Tutorとして活躍する機会があります。活動は主にグローバルゼーションオフィスのラウンジで行います。学期初めに新メンバーを募集していますので挑戦してみてください。

海外留学に興味のある学生には、留学相談、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会等を開催しています。教職員や学生留学アドバイザーが学期中、個別の留学相談にも応じています。また大学の交換留学プログラムで海外留学が内定した駒場に所属する学生を対象に留学前研修を実施しています。

これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方はグローバルゼーションオフィスのTwitterをチェックしましょう。



Twitterにアクセス



<https://twitter.com/UTokyoKomabaGO>

Global Studies Program

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、提供されている科目はすべての他学部の学生にも開かれており、受講が可能です。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク等を通して共同演習を行います。他にも幅広い内容の授業が主に英語で開講され、留学生と共に学ぶことができます。教室以外でも、交換留学生を交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府・民間機関で活躍されている方のお話を聴く企画等を実施しています。これらは他学部の学生のみならず1・2年生も歓迎ですので、ぜひ気軽に参加してください。文化の多様性、多元化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちと共に学び、活動の場を共有することを通して、国際的な視野を身に付け、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。留学を考えている学生にもそうでない学生にも、キャンパスにいながらプレ留学体験ができる場ともなっています。

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)は、工学系研究科国際工学教育推進機構が主催する、英会話に慣れたい・英語力を向上させたいという東京大学の学生・職員向けのプログラムです。日常会話・プレゼンテーション・ディスカッション・TOEFL対策等様々なコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。複数の英語学校から経験豊かな講師を招き、毎年S semester(4月募集)とA semester(10月募集)に8~10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講しています。みなさんも週1~2回、集中して英語に取り組んでみませんか。自分で英語を話すアウトプットの機会がない、そのために英語で言いたいことがなかなか言えないといったことに悩んでいる方には、特にお薦めです！SELによって、みなさんが本来持っている英語の潜在能力が発揮できるようになります。キャンパス内で気軽に受講できるSELに、ぜひご参加ください。

UTokyo Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Programは、未来の科学者・イノベーターの育成を目的として、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界24の大学・機関において実践的・専門的・集中的な研究体験の場を提供する夏季インターンシッププログラムです。東京大学の学生は、東京大学・京都大学・シンガポール国立大学・清華大学で開催されるプログラムに応募することができます。いずれのプログラムでも、世界中から意欲ある学生が集まり、積極的に研究活動に取り組んでいます。東京大学プログラム参加者は、期間中全員が同じ宿舎に滞在し、医・工・理・農・薬・生研の大学院/研究所の研究室に所属して最先端の研究に携わります。また、様々な交流イベントもあります。そしてプログラム終了後には、シンガポール国立大学で開催される4大学合同シンポジウムに参加して、研究発表を行ったり、他大学プログラム参加者と交流する機会があります。学内やアジア地域で国際経験を積み世界の仲間とつながることができるプログラムです。

UTokyo Amgen Scholars Program



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



Facebookにアクセス



<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fas/joint-program/gs/>
<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/gs/>
<https://www.facebook.com/Global-Studies-in-Komaba-110316410401132/>



詳細はこちら



<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/sel/index.html>



Amgen Scholars Asia Program



<https://www.amgenscholars.com/asia-program>



UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)

—海外学生と共に学ぶ国際交流プログラム

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)は、グローバルキャンパス推進本部が2021年度に開設した海外の学部学生向けの短期受入プログラムです。世界中の優れた学生を対象に東京大学の教員が英語で集中講義形式の講義を行います。一定条件のもと、東京大学の学生も参加することができます。受講を終えた学生にはグローバルキャンパス推進本部が発行する「グローバル・ユニット」が付与されます。UTokyo GUCは東京大学の魅力を世界に発信するとともに、東京大学の学生が世界の学生とともに学ぶ機会を提供します。オンライン・オンデマンドの講義も展開するポストコロナ時代にふさわしい国際体験の場です。

*グローバル・ユニットとは？

国際総合力認定制度 (p20参照) の活動として利用可能
Certificateを発行 (ユニット数とA/B/C/D/F等の成績明示)
1ユニット:1回90分×10回=15時間、0.5ユニット:1回90分×5回=7.5時間
1週間または2週間で終了

※グローバル・ユニットは学部・研究科が提供する通常の単位とは異なります。
また、卒業要件等には使用できません。

●期間 各コースとも2022年6月第3週目～8月第1週目の間で設定される

●受講料 1ユニット:5,000円/0.5ユニット:2,500円

●東京大学学生の受講要件等

- ・受講にあたって、通常授業の妨げにならないこと
- ・主に学部学生を対象とするが、大学院学生の受講も妨げない
- ・各コース出願者の審査を行い、受講学生を決定する
- ・受講が決定した学生は、修了証を取得できるよう必ず最後まで講義に参加すること

●応募 応募の詳細については、Go Global ウェブサイト等で周知する

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-oncampus-guc.html>

●2022年度対象:海外の大学に在籍する学生・東京大学の学生

●2022年夏提供コース *2022年度は全コースオンラインまたはオンデマンド形式で開講

- ・Media in Japan and the World / Prof. Kaori Hayashi
- ・Law in Transnational East Asia / Prof. Kentaro Matsubara
- ・Writings About Japan-Analyzing Cultural Representations, From Orientalism to Artificial Intelligence / Prof. Yujin Yaguchi
- ・Group Theory and Its Applications-Introduction to Beautiful Modern Mathematics / Prof. Yukari Ito
- ・Nanoscience / Prof. Satoshi Iwamoto
- ・Sustainable Urban Management / Associate Prof. Kiyo Kurisu
- ・Early Language Acquisition-How Human Infants Learn Language Within Their Social Environment / Assistant Prof. Sho Tsuji
- ・AI and Social Justice / Prof. Yuko Itatsu

●参加者の声

東京大学の学生 2021年GUC参加者
教養学部文科二類2年

"As a UTokyo student who participated in GUC, what impressed me most was that all students were participating so actively. It was sometimes hard to keep up with them and to state my opinions in the class, but I was inspired so much by such attitude of other students. Also, as the atmosphere of the class was so welcoming, I was able to try my best without being afraid of making mistakes. I listened to various opinions and feelings from the international students, and I think these circumstances made the class more meaningful and fun."



<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>

最新情報はこちら



6) 各学部・研究科の取り組み

①学部・研究科間交換留学 協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。
プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当部署で確認しましょう。

※(M)は修士のみ、(D)は博士のみ

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|--------------|--|------|
| 法学政治学研究科・法学部 | | |
| 中国 | 北京大学法学院 | 院 |
| 中国 | 北京大学国際関係学院 | 学部/院 |
| 韓国 | ソウル大学校法科大学院 | 院 |
| 医学系研究科・医学部 | | |
| 台湾 | 国立台湾大学医学部 | 学部 |
| 韓国 | ソウル大学校医学科 | 学部 |
| シンガポール | シンガポール国立大学医学部 | 学部 |
| 米国 | ジョンズホプキンス大学医学部 | 学部/院 |
| 米国 | ペンシルバニア大学医学部 | 学部/院 |
| 米国 | ミシガン大学医学部 | 学部/院 |
| 米国 | ハワイ大学医学部 | 学部 |
| ドイツ | ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学医学部 | 学部 |
| スウェーデン | カロリンスカ研究所 | 学部/院 |
| 工学系研究科・工学部 | | |
| 台湾 | 国立中山大学理学院・工學院 | 学部/院 |
| 中国 | 大連理工大学 | 学部/院 |
| 中国 | 同済大学院 ※新領域と担当 | 学部/院 |
| 中国 | 北京交通大学 | 学部/院 |
| 中国 | 福州大学化学学院 | 学部/院 |
| 香港 | 香港理工大学建設・環境学部 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学マドラス校 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学ハイデラバード校 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学カラガプール校 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学キャンブル校 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学デリー校 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| インド | インド工科大学ボンベイ校 ※情報理工と担当 | 院 |
| インド | インド工科大学ルーキーク校 | 学部/院 |
| インド | インド経営大学院バンガロール校 ※情報理工と担当 | 院 |
| 韓国 | ソウル大学校工科大学 | 学部/院 |
| シンガポール・中国 | シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院 [AMU] ※新領域と担当 | 院(M) |
| タイ | アジア工科大学院 | 院 |
| タイ | チュラロンコン大学工学部 ※対象専攻・学科限定 | 学部/院 |
| タイ | タマサート大学国際工学部 (SIIT) | 学部/院 |
| ベトナム | ベトナム国家大学ハノイ校理科大学 | 学部/院 |
| トルコ | 中東工科大学工学部 | 学部/院 |
| トルコ | イスタンブール工科大学理工学部 | 学部/院 |
| アラブ首長国連邦 | マサダール科学技術大学 | 学部/院 |
| カナダ | マクマスター大学 | 学部/院 |
| 米国 | マサチューセッツ工科大学 ※対象学科限定 | 学部 |
| 米国 | カリフォルニア大学(全校) | 学部/院 |
| オーストラリア | ロイヤルメルボルン工科大学 | 学部/院 |
| オーストラリア | クイーンズランド工科大学理工学部 | 学部/院 |

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|----------|--|------|
| ニュージーランド | カンタベリー大学工学部 | 学部/院 |
| オーストリア | ウィーン工科大学 | 院 |
| オーストリア | グラーツ工科大学 | 学部/院 |
| デンマーク | デンマーク工科大学 | 学部/院 |
| フィンランド | アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学) | 学部/院 |
| フランス | ソルボンヌ大学(旧:ピエール・エ・マリイ・キュリー大学(パリ第6大学))工学部 | 学部/院 |
| フランス | セントラルスーパーレック(旧:エコール・セントラル・パリ) | 学部/院 |
| フランス | エコールアトランティック(旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント) | 学部/院 |
| フランス | フランス国立応用科学院リヨン校 (INSA Lyon) | 学部/院 |
| フランス | エコール・ミン・パリ | 学部/院 |
| フランス | エコール・デ・ボン・パリテク | 学部/院 |
| フランス | 航空宇宙高等学院 (ISAE) | 学部/院 |
| フランス | 国立民間航空大学校 (ENAC) | 学部/院 |
| フランス | エコール・セントラル・リヨン | 学部/院 |
| フランス | トロワ工科大学 | 学部/院 |
| フランス | パリ・サクレ大学 | 学部/院 |
| フランス | コンビエーニュ工科大学 | 学部/院 |
| フランス | サヴォア・モンブラン大学 | 学部/院 |
| フランス | パリ・ヌッド大学(パリ第11大学) | 学部/院 |
| フランス | ポルドー大学 | 学部/院 |
| ドイツ | シュツットガルト大学 | 学部/院 |
| ドイツ | カールスルーエ大学 | 学部/院 |
| ドイツ | ミュンヘン工科大学(TUM) | 学部/院 |
| ドイツ | ダルムシュタット工科大学 | 学部/院 |
| ドイツ | フリードリヒ・アレクサンダー大学エランゲン・ニュルンベルク工学部 | 学部/院 |
| ドイツ | アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※理学系と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ウルム大学 ※理学系、情報理工と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ブランデンブルク工科大学 | 学部/院 |
| ドイツ | ワイマール・パウハウス大学土木工学部 | 院(M) |
| イタリア | トリノ工科大学 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| イタリア | ミラノ工科大学 | 学部/院 |
| イタリア | 聖アンナ大学院大学バイオロボティクス研究所 [GSMD] | 学部/院 |
| オランダ | デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部 | 学部/院 |
| オランダ | トエンテ大学 | 学部/院 |
| ノルウェー | ノルウェー工科大学自然科学部 | 学部/院 |
| ロシア | サンクトペテルブルク国立大学マネージメントスクール | 学部/院 |
| スペイン | マドリッド工科大学建築学部 | 学部/院 |
| スペイン | バレンシア工科大学 | 学部/院 |
| スウェーデン | チャルマース工科大学 | 学部/院 |
| スウェーデン | ルレオー工科大学 | 院(M) |

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|---------------|---|----------|
| スウェーデン | リンシェーピング大学理工学部 ※情報理工と担当 | 学部/院 |
| スウェーデン | スウェーデン王立工科大学 [GME] | 学部/院 |
| スイス | スイス連邦工科大学ローザンヌ(EPFL) | 学部/院 |
| EU | ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※新領域と担当 | 学部/院 (M) |
| 人文社会系研究科・文学部 | | |
| 中国 | 山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心 | 学部/院 |
| 中国 | 北京大学歴史学系 ※総合文化と担当 | 院 |
| 中国 | 北京大学中国語文学系 ※総合文化と担当 | 院 |
| 中国 | 北京大学哲学宗教学系 ※総合文化と担当 | 院 |
| 香港 | 香港中文大学文学部 | 学部/院 |
| 韓国 | ソウル大学校人文大学 | 院 |
| イラン | テヘラン大学 | 院 |
| フランス | エコール・ノルマル・スーペリエール | 院 |
| フランス | エコール・ノルマル・スーペリエール(リヨン校) | 院 |
| フランス | パリ第7・デイドロ大学 ※総合文化、数理科学と担当 | 学部/院 |
| フランス | パリ第8大学 ※総合文化と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※総合文化と担当 | 学部/院 |
| イタリア | ピサ高等師範学校 | 院 |
| 英国 | カーディフ大学 | 学部/院 |
| 英国 | セインズベリー日本藝術研究所 | 学部 |
| 理学系研究科・理学部 | | |
| 韓国 | ソウル大学校自然科学大学 | 院 |
| チリ | マガジャネス大学 | 学部/院 |
| カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 学部/院 |
| 米国 | カリフォルニア大学 | 学部 |
| ベルギー | ゲント大学理学部 | 学部/院 |
| チェコ | 南ボヘミア大学水産・水系保護研究院 | 学部/院 |
| フランス | 国立工学研究センター(ENSICAEN) | 学部/院 |
| フランス | パリの南大学 | 学部/院 |
| ドイツ | アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンスおよび自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※工学系と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ウルム大学 ※工学系、情報理工と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ハイデルベルク大学バイオサイエンス学部/ハイデルベルクバイオサイエンス国際大学院 | 学部/院 |
| ドイツ | ライプニッツ大学ハノーバー 自然科学研究科 | 学部/院 |
| イタリア | フェラーラ大学物理学・地球科学部 | 学部/院 |
| イタリア | ペルージャ大学物理・地質学科 | 学部/院 |
| ロシア | サンクトペテルブルク国立大学 | 学部/院 |
| ロシア | ロモノソフ記念モスクワ国立大学 | 学部/院 |
| スウェーデン | ルレオー工科大学コンピュータ科学・電子・宇宙工学部 | 学部/院 |
| 農学生命科学研究科・農学部 | | |
| 台湾 | 国立台湾海洋大学 | 学部/院 |
| 台湾 | 国立中興大学獣医学院 | 学部/院 |
| 台湾 | 台北医学大学栄養学部 | 学部/院 |
| 台湾 | 国立屏東科技大学獣医学院 | 学部/院 |
| 台湾 | 国立台湾大学生物資源農学院 | 学部/院 |
| 中国 | 四川農業大学 | 学部/院 |
| 中国 | 中国農業大学 | 学部/院 |
| 中国 | 東北林業大学 | 院 |
| 中国 | 南京農業大学 | 学部/院 |
| 中国 | 南京林業大学 | 院 |
| 中国 | 北京林業大学 | 学部/院 |

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|--------------|---------------------------------------|------|
| 中国 | 西南大学 | 学部/院 |
| 中国 | 海南大学熱帯農林学院 | 学部/院 |
| 中国 | 浙江農林大学 | 学部/院 |
| 中国 | 浙江工業大学生物工程学院 | 学部/院 |
| 中国 | 福建農林大学 | 学部/院 |
| 中国 | 河南科技大学 | 学部/院 |
| インド | タミルナードゥ農業大学 | 学部/院 |
| インドネシア | ボゴール農科大学 | 学部/院 |
| インドネシア | ムラワルマン大学 | 学部/院 |
| インドネシア | ランブン大学農学部 | 学部/院 |
| 韓国 | ソウル大学校農産生命科学大学 | 学部/院 |
| 韓国 | ソウル大学校獣医科学大学 | 学部/院 |
| 韓国 | 釜慶大学校水産科学大学 | 学部/院 |
| 韓国 | 釜慶大学校環境海洋科学大学 | 学部/院 |
| マレーシア | マレーシア・サバ大学 | 学部/院 |
| モンゴル | モンゴル生命科学大学(旧:モンゴル農業大学) | 学部/院 |
| モンゴル | モンゴル国立大学 | 学部/院 |
| スリランカ | ルフナ大学 | 学部/院 |
| タイ | カセサート大学獣医学部・農学部・林学部 | 学部/院 |
| タイ | コンケン大学農学部 | 学部/院 |
| タイ | チェンマイ大学 | 学部/院 |
| タイ | チュラロンコン大学 | 学部/院 |
| ベトナム | ベトナム国立農業大学 | 学部/院 |
| ベトナム | カントー大学 | 学部/院 |
| フランス | アグロパリテック(旧:パリーグリニオン国立農学院) | 院 |
| ドイツ | カールスルーエ工科大学 | 学部/院 |
| ドイツ | ボン大学開発研究センター | 院 |
| イタリア | マルケ工科大学 | 学部/院 |
| ポーランド | クラクフ農科大学 | 学部/院 |
| スウェーデン | スウェーデン農科大学 | 学部/院 |
| 経済学研究科・経済学部 | | |
| 米国 | ブランダイス大学 | 学部 |
| フランス | HEC経営学院(HEC Paris) | 学部/院 |
| ドイツ | デュースブルク・エッセン大学東アジア研究所 | 院 |
| ドイツ | フランクフルト大学経済・経営学部 | 学部/院 |
| スウェーデン | ストックホルムスクール・オブ・エコノミクス(SSE) | 学部/院 |
| 英国 | ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL) 社会・歴史学部 | 学部 |
| 総合文化研究科・教養学部 | | |
| 台湾 | 国立政治大学歴史学系 | 院 |
| 台湾 | 国立政治大学台湾史研究科 | 院 |
| 中国 | 華東師範大学思勉人文高等研究院 | 院 |
| 中国 | 中山大学国際関係学院 | 院 |
| 中国 | 北京大学歴史学系 ※人文社会系と担当 | 院 |
| 中国 | 北京大学中国語文学系 ※人文社会系と担当 | 院 |
| 中国 | 北京大学哲学系宗教学系 ※人文社会系と担当 | 院 |
| 中国 | 北京大学元培学院(東アジア藝文書院(EAA)「東アジア教養学」プログラム) | 学部 |
| 韓国 | 韓国外国語大学校日本大学 | 学部/院 |
| シンガポール | シンガポール国立大学理学部 | 学部 |
| ベトナム | ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学 | 学部/院 |
| ベトナム | ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学 | 院 |
| 米国 | ニューヨーク大学大学院総合文化研究科 | 院 |
| カザフスタン | アルファラバカザフ国立大学東洋学部 | 学部/院 |
| フランス | パリ大学(旧:パリ第7・デイドロ大学) ※人文社会系、数理科学と担当 | 学部/院 |

次ページへ続く

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|-------------|---|-------|
| フランス | パリ第8大学 ※人文社会系と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ベルリン・フンボルト大学 | 学部/院 |
| ドイツ | マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部 | 学部/院 |
| ドイツ | ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※人文社会系と担当 | 学部/院 |
| ドイツ | ユストゥス・リービヒ大学ギーン社会科学・文化科学研究科、メディア論研究センター | 学部/院 |
| ドイツ | ハンリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部 | 学部/院 |
| ドイツ | トリア大学第二学部、第三学部 | 学部/院 |
| ドイツ | ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン社会科学部 | 学部/院 |
| イタリア | トレント大学統合生物学センター | 学部/院 |
| ロシア | ロシア国立人文大学 | 学部/院 |
| スペイン | セビリア大学哲学部 | 学部/院 |
| 英国 | エセックス大学 | 学部 |
| 教育学研究科・教育学部 | | |
| スウェーデン | ストックホルム大学教育学部 | 学部/院 |
| 薬学系研究科・薬学部 | | |
| 中国 | 瀋陽薬科大学 | 院 |
| 米国 | テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター | 院 |
| ドイツ | ボン大学リサーチ・トレーニンググループ1873 | 院 |
| スウェーデン | イェテボリ大学S.A.アカデミー | 院 |
| 数理科学研究科 | | |
| フランス | エコール・ノルマル・スーペリエールリオン数学科 | 院 |
| フランス | パリ第7・デイドロ大学 ※人文社会系、総合文化と担当 | 院 |
| ロシア | 国立研究大学高等経済学院(HSE) | 院 |
| 新領域創成科学研究科 | | |
| 中国 | 同済大学院 ※工学系と担当 | 院 |
| 韓国 | 韓国科学技術院(KAIST)工学研究科 | 院 |
| シンガポール・中国 | シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院 ※工学系と担当 | 院 (M) |
| ブラジル | ヘルナンズコ連邦大学 | 院 |
| ブラジル | サンタカタリーナ連邦大学 | 院 |
| ブラジル | パラナ連邦工科大学 | 院 |
| コロンビア | エアフィット大学 | 院 |
| オーストラリア | ロイヤルメルボルン工科大学 | 院 |
| オーストリア | ウィーン工科大学 | 院 |
| フランス | フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon) | 院 |
| フランス | エコール・ノルマル・スーペリエールリオン | 院 |
| フランス | エコール・セントラル・ドゥ・ナント校 | 院 |
| フランス | ジャンモネ大学 | 院 |
| フランス | クロード・ベルナル・リヨン第一大学 | 院 |
| フランス | フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セヌ校 | 院 |
| フランス | フランス国立パリ建築大学ラビエト校 | 院 |
| 英国 | インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻 | 院 |
| ノルウェー | スタヴァンゲル大学ビジネススクール | 院 |
| スウェーデン | チャルマーズ工科大学 | 院 |
| EU | ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※工学系と担当 | 院 (M) |
| その他 | 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS) | 院 |
| 情報理工学系研究科 | | |
| インド | インド工科大学マドラス校 ※工学系と担当 | 院 |
| インド | インド工科大学ハイデラバード校 ※工学系と担当 | 院 |
| インド | インド工科大学カンパール校 ※工学系と担当 | 院 |

| 国・地域 | 協定校 | 対象 |
|----------------|---|------|
| インド | インド工科大学デリー校 ※工学系と担当 | 院 |
| インド | インド工科大学ボンベイ校 ※工学系と担当 | 院 |
| インド | インド経営大学院バンガロール校 ※工学系と担当 | 院 |
| タイ | チュラロンコン大学工学部、理学部 | 院 |
| オーストリア | ウィーン工科大学(VUT) | 院 |
| デンマーク | デンマーク工科大学(DTU) | 院 |
| フィンランド | アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学) | 院 |
| フランス | エコール・スーペリエール EA(ESIEA) | 院 |
| フランス | セントラルスープレック(旧:エコール・セントラル・パリ) | 院 |
| フランス | IMT Atlantique(旧:エコール・デ・ミンド・ナント) | 院 |
| フランス | パリ・サクレ高等師範学校(旧カジャン高等師範学校) | 院 |
| フランス | フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon) | 院 |
| フランス | ソルボンヌ大学 | 院 |
| ドイツ | ミュンヘン工科大学(TUM) | 院 |
| ドイツ | ダルムシュタット工科大学(TUD) | 院 |
| ドイツ | ウルム大学 ※工学系、理学系と担当 | 院 |
| イタリア | トリノ工科大学 ※工学系と担当 | 院 |
| ノルウェー | ノルウェー工科大学自然科学大学(NTNU) | 院 |
| スウェーデン | リンシェーピング大学理工学部 ※工学系と担当 | 院 |
| 情報学環・学際情報学府 | | |
| 韓国 | ソウル大学校社会科学大学言論情報学科 | 院 |
| 公共政策学連携研究部・教育部 | | |
| 中国 | 北京大学国際関係学院(PKU-SIS) | 院 |
| 韓国 | ソウル大学校国際大学院(SNU-GSIS) | 院 |
| シンガポール | シンガポール国立大学リサーチ・クアンユー公共政策大学院(LKY-SPP) | 院 |
| ブラジル | ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール(FGV) | 院 |
| 米国 | コロンビア大学国際公共政策大学院(SIPA) | 院 |
| 米国 | カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ラスキン公共政策大学院公共政策学科 | 院 |
| オーストラリア | オーストラリア国立大学(ANU)クロフォード公共政策大学院 | 院 |
| デンマーク | コペンハーゲン大学社会科学研究科 | 院(D) |
| フランス | パリ政治学院(Sciences Po.) | 院 |
| フランス | HEC経営学院(HEC Paris) | 院 |
| ドイツ | ヘルティエール・スクール(Hertie School) | 院 |
| ドイツ | ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies (GPTS) | 院 |
| 英国 | ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE) | 院 |
| 英国 | ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科 | 院 |
| その他 | 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS) | 院 |

※2022年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。
※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

②各学部・研究科によるプログラム

海外武者修行 (工学系研究科・工学部)



工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自分の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自分の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めると同時に、国際共同研究のきっかけを掴むことが期待されています。

これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。

海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生(詳細は募集要項を参照)
実施期間:募集要項にて確認
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
outbound.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

国際交流促進プログラム (農学生命科学研究科)



本プログラムは、留学を通じて国際的な経験と知識を身につけ、より深く、かつ幅広い研究活動の発展に資することを目的とし、奨学金の支給により海外の大学・研究所・研究機関等への留学を応援します。本プログラムにより、若い時期に多様な専門分野の研究に参画することで、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の獲得、国際的な人的ネットワークの形成等が期待され、また英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。

本プログラムは、1.自らの自由な発想で留学計画を組み立てられる
2.留学先・研究内容等の自由度が比較的高いプログラムである
3.主に海外留学を経験したことのない者を優先する を特色としています。詳細については、本研究科のウェブサイト参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生
実施期間:2022年7月～2024年3月(予定)のうち3ヶ月～1年
応募方法:書類審査
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム(学生生活担当)



文学部特別プログラム (文学部)



文学部では、2014年1月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間学術交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、特別プログラムを実施しています。英国で行われるプログラムでは、セインズベリー研究所がホストとなり、東京大学の学部生5名と英国を始めとする欧州等の学生5名とで、ロンドンとセインズベリー研究所が所在するノーフォーク州を訪れ、英語を使用言語としながら、座学、博物館・美術館見学、グループ・ワーク等を通して、考古学・美術史学・文化資源学等を学んでいます。反対に日本で行われるプログラムでは、文学部がホストとなり、東京大学本郷キャンパスと本研究科附属北海文化研究常呂実習施設にて同様の学習と交流プログラムを実施しています(例年9月に実施)。本プログラムの概要や実施内容、参加学生のレポートは、下記のURLに掲載されている報告書で読むことができます。

興味のある方は、是非ご参加ください。

対象学生:学部前期課程および後期課程に在学する学生(専攻分野問わず)
実施期間:2月に10日間程度で実施予定
応募方法:応募書類提出、書類審査により選考
URL:http://www.l.u-tokyo.ac.jp/program/special.html
お問い合わせ先:人文社会系研究科・文学部学生支援チーム学部担当
kyoumu@l.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



東京大学リベラルアーツ・プログラム (総合文化研究科・教養学部)



リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、(1)毎年3月に学部1年生から院生までの混合チームを派遣してフィールドワークとグループ討論を行います(1週間派遣)。(2)毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します(3週間派遣)。(3)毎年11月に南京大学の学生を駒場に招き、東京大学一週間体験プログラムを実施。東京大学の学生とともにフィールドワークとグループ討論を行います(1週間)。さらに、(4)学部3年生以上を対象に、中国語上級サマースクール「深思北京」を、中国人民大学と連携して、秋に開講しています(1週間派遣)。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部学生が対象だが大学院学生も参加可
専攻・学年の別は問わない

実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門

詳細はこちら



赤十字国際委員会地域事務所インターンシッププログラム (総合文化研究科・教養学部)



総合文化研究科・教養学部と赤十字国際委員会(ICRC)との協定に基づき、教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生をICRCインドネシア・東ティモール地域事務所に2～3ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとしてICRCの政策に関する諸領域(国際人道法・プロテクション・研修・アドボカシー)においてICRCが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、同事務所が展開する事業の実践的な業務補助を行います。国際法や国際情勢、国際機関等について勉強・研究する学生に、実践を通して学術的な学びを補完するプログラムであり、将来国際機関、国際法、平和構築、紛争解決等の分野で活躍したい学生にその実践的な機会を提供するものです。具体的な派遣時期・期間は、教養学部・総合文化研究科からの学生の推薦を受けてICRCインドネシア事務所が決定します。

対象学生:教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生
実施期間:2～3ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:応募書類提出。書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部 国際交流センター国際研究協力室
irco-komaba@adm.c.u-tokyo.ac.jp

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム (公共政策学教育部)



公共政策学教育部(GraSPP)は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、14大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム(DD)を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。詳細についてはGraSPPのウェブサイト参照してください。

対象学生:公共政策学教育部の専門職学位課程学生
実施期間:交換留学は1学期から1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法:プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する

URL:http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/student-activities/
double-degree-program/
お問い合わせ先:公共政策学教育部国際交流担当
exchange.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム (教育学研究科)



教育学研究科と国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコク事務所・アジア太平洋地域教育局(以下、ユネスコ・バンコク事務所)の協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域(政策、実践、調査研究等)においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることを見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト(学内限定)を参照してください。

対象学生:教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間:9月以降に開始し、4ヶ月以上6ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:教育学研究科国際交流室・学生支援チーム

II 留学・国際交流関連情報

p38-53

0. コロナ禍における各プログラム実施状況 p39

1. 情報収集方法 p40-41

2. 留学にかかる費用と奨学金 p42-45

1) 費用と奨学金例 p42-43

2) 支援者からのメッセージ p44-45

3. 留学における学籍・単位認定 p46-47

4. 語学能力検定試験 p48

5. 安全と危機管理 p49

6. 留学と就職活動 p50

7. 卒業後の大学院留学 p51

8. よくある質問 p52-53

0. コロナ禍における各プログラム実施状況

本ガイドブックp1に記載の通り、本ガイドブックに掲載されている多くのプログラムが新型コロナウイルス感染症の影響を受けていますが、基本的に本ガイドブックでは平時のプログラム概要を中心に紹介しています。一方でこのページでは、本ガイドブックに掲載されている各プログラムの、本ガイドブック作成時点(2021年12月)でのコロナ禍における実施状況を一覧で掲載します。2022年度における最新情報は必ず各プログラムの担当部署やウェブサイト等にて確認してください。

以下の表の「コロナ禍での実施状況」に記載のA~Dは、それぞれ以下の実施状況を表します。

- A:コロナ禍前と同様に対面でプログラムを実施
- B:コロナ禍前と比べ、一部制限を設けて対面でプログラムを実施
- C:コロナ禍以降、対面でのプログラムを中止し、オンラインで実施
- D:コロナ禍以降、対面でのプログラムを中止し、オンラインでも実施していない

なお、交換留学プログラムなど、派遣・受入の双方に関するプログラムでも、本ページでは「受入」に関する情報は含まず、「派遣」に関する情報に限定して記載しています。

| プログラム名称 | コロナ禍での実施状況 (2021年12月現在) | 備考 | 本ガイドブック掲載ページ | 2022年度の実施予定等 |
|--|----------------------------|---|--------------|--|
| 全学交換留学 | B | | p6-11 | 2022年度における最新情報は、必ず各プログラムの担当部署やウェブサイト等にて確認してください。 |
| UC派遣プログラム | B | | p12-13 | |
| 全学短期派遣プログラム | C | グローバルキャンパス推進本部主催プログラムに限る。協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するものは、一部対面で実施されている。(ただしグローバルキャンパス推進本部として募集中止する場合があります。) | p14-19 | |
| 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) | C | | p20-23 | |
| GLP-GEFIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム | B | | p24 | |
| 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・後期課程「後期国際研修」 | B、C | プログラムによって、実施状況が異なる。 | p25 | |
| 体験活動プログラム | C | 体験活動プログラムのうち、国際交流プログラムに限る。 | p26 | |
| 東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動) | D | | p27 | |
| 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム (UGIP) | B | 受入先企業と相談のうえ、国内拠点で対面活動を行う、オンラインに代替する等柔軟に対応。 | p28 | |
| 国際化教育支援室が実施するイベント・プログラム | C | 各イベント・プログラムの性質に応じて、対面・オンラインを問わず実施していないものもある。 | p29 | |
| International Lounge (IL) | C | | p30 | |
| グローバルゼーションオフィスが実施するイベント・プログラム | C | 各イベント・プログラムの性質に応じて、一部対面で実施しているものや、対面・オンラインを問わず実施していないものもある。 | p30 | |
| Global Studies Program | C | | p31 | |
| スペシャル・イングリッシュ・レッスン (SEL) | C | | p31 | |
| UTokyo Amgen Scholars Program | D | | p31 | |
| UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) | C※ | 2021年開始のプログラム。 | p32 | |
| 学部・研究科間交換留学(法学政治学研究所・法学部) | D | | p33 | |
| 学部・研究科間交換留学(医学系研究所・医学部) | D | 国立台湾大学とのプログラムのみ2021年度に対面で実施。 | p33 | |
| 学部・研究科間交換留学(工学系研究所・工学部) | B | | p33-34 | |
| 学部・研究科間交換留学(人文社会系研究所・文学部) | A | ただし先方大学で渡航を伴う受入を行わない場合は、プログラムを中止・延期、またはオンラインで実施している。 | p34 | |
| 学部・研究科間交換留学(総合文化研究所・教養学部) | C | | p34-35 | |
| 学部・研究科間交換留学(教育学研究所・教育学部) | D | | p35 | |
| 学部・研究科間交換留学(新領域創成科学研究科) | D | | p35 | |
| 学部・研究科間交換留学(情報理工学系研究所) | D | | p35 | |
| 学部・研究科間交換留学(情報学環・学際情報学府) | C | | p35 | |
| 学部・研究科間交換留学(公共政策学連携研究部・教育部) | B | | p35 | |
| 海外武者修行(工学系研究所・工学部) | D | コロナ禍以降、募集済未実施分については対面でのプログラムは延期。対面型からオンライン型への移行は可能。 | p36 | |
| 文学部特別プログラム(文学部) | D | 2021年度は英国でのプログラムは中止し、日本でのプログラムは東京大学の学生のみで実施。 | p36 | |
| 国際交流促進プログラム(農学生命科学研究科) | B | | p36 | |
| 東京大学リベラル・アーツ・プログラム(総合文化研究所・教養学部) | C | 南京大学フィールドワーク研修は、D。 | p36 | |
| 赤十字国際委員会地域事務所インターンシッププログラム(総合文化研究所・教養学部) | D | | p37 | |
| ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム(教育学研究所) | D | | p37 | |
| 海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム(公共政策学教育部) | B | | p37 | |

※UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、2022年度はオンラインでの実施が決定済み。

1. 情報収集方法

有意義な留学・国際交流の成否はどれだけ情報収集を行ったかで左右されると言っても過言ではありません。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

東京大学全体・グローバルキャンパス推進本部のプログラムの情報

①Go Global ウェブサイト

留学プログラムや奨学金、安全管理等について本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバルキャンパス推進本部のプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

Go Global ウェブサイトにアクセス



②Go Global公式SNSアカウント

グローバルキャンパス推進本部からの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の最新情報をお知らせします。以下のアカウントをフォローすれば、有益な情報をリアルタイムで得ることができます。



SNSアカウントをフォロー



③留学・国際交流関連イベント

グローバルキャンパス推進本部では大規模な春の留学フェア、秋の留学説明会に加え、年に数回、小規模な留学プログラム・海外インターンシップ等の説明会を開催しています。説明会は担当者やプログラム参加者の話を直接聞くことができるよい機会です。また、海外大学や各国大使館等が主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加してみましょう。説明会・イベントの情報は①Go Global ウェブサイトや②Go Global 公式SNSアカウント等で紹介しています。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-events.html>

イベント情報を確認する



2019年4月に開催した留学フェアの様子。様々なプログラムの説明を受けたり、ブース出展団体との個別相談、プログラム参加者との交流ができたりする、貴重な機会です。

④Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学生・教職員・卒業生が留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループです。参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。詳細はGo Global ウェブサイトを確認してください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-search-fb.html>

グループに参加する



⑤Go Globalセンターサポートデスク

Go Globalセンターサポートデスクでは海外留学に関する全般的・一般的な質問、相談に対応しています。サポートデスクの利用方法、開設時間等はウェブサイトからご確認ください。

アドバイザーから一言

海外留学に興味がある、何から始めたらよいのか分からない、海外留学をしようか迷っている等、お気軽にお話しください。海外留学に関する情報提供・相談を行っています。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-icenter.html>

開室時間を確認する



各学部・研究科の情報

各学部・研究科独自の留学・国際交流プログラムについては、各学部・研究科のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点(留学中の授業履修・単位・学籍等)も各学部・研究科によって異なるので、必ず申請前に担当部署へ確認するようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

各学部・研究科の連絡先一覧にアクセス



個人で参加する留学の情報

留学プログラムには、東京大学が募集するもの以外にも、海外の大学や民間の留学業者等が募集するプログラムもあります。また、留学プログラム以外にも、海外で行う活動としてインターンシップやボランティア等が海外企業、大学、国際機関等で実施されています。これらの内容・時期・期間は多岐に渡るため、みなさんの希望に合うものもきっとあるでしょう。東京大学の協定校や政府機関が募集するものについては、Go Global ウェブサイトでも随時案内しているので、参考にしてください。

東京大学が募集するプログラムと違い、手続きをすべて自分で進めることになるため、十分な情報収集を行うことが必要です。応募前に、留学時の所属学部・研究科の担当部署にて手続き等をよく確認しておくことも重要です。

(参考)日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency

海外には数多くの東大同窓会があります!

東京大学卒業生のネットワークは近年急速に広がっており、海外には、35ヵ国・地域に57の同窓会が組織されています。海外における体験活動プログラムやサマー/ウィンタープログラムなどを通じて、在學生に向けて様々なサポートを提供してくれています。コロナ禍ならではの動きとして、オンラインで在米、在欧、在アジアの同窓会が横断的につながり、在學生に情報を提供する活動も始まります。世界で活躍している卒業生とのネットワークをぜひ活用してください。

海外同窓会の一覧と各同窓会のコンタクト先はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html



2. 留学にかかる費用と奨学金

1) 費用と奨学金例

①費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上（1年間）の学費・生活費等がかかります。留学しない場合も必要となる日本での学費・生活費も考慮して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学等の場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助等が受けられる場合があります。



いかがでしょうか?この例以外にも、留学体験記(p9-11参照)やGo Global ウェブサイト(p40参照)に掲載されている、留学経験者の報告書にも留学に要した費用について記載があります。留学計画の参考にしてください。

②海外留学等奨学金について

●奨学金の種類(期間・目的・応募方法)

まず、留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満で奨学金支給の対象が分かれています。さらに奨学金によっては交換留学、学位取得、その他(インターンシップ、ボランティア等)等その種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。また、東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するもの(大学公募型)と、個人で外部団体へ直接応募するもの(個人応募型)があります。給付奨学金のほか、貸与奨学金もあります。

●奨学金の探し方

東京大学および外部団体からの主な奨学金の公募情報は、Go Global ウェブサイト(p40参照)上で随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。奨学金の応募締切は留学開始の半年以上前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。また、「他奨学金との併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

●東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラム等、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件(成績・家計基準等)や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。グローバルキャンパス推進本部が実施する全学交換留学、一部の全学短期派遣プログラムについては、要件を満たす学生は学内選考時に奨学金の申請ができるため、海外有力大学の各種プログラムへ東京大学からの奨学金を得て参加することが可能です。

●学位取得のため留学する場合

学位を取得するために留学する場合は、日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(大学院学位取得型)ほか様々な外部団体が公募している奨学金があります。

③主な海外留学等奨学金一覧

大学公募型(東京大学による推薦や取りまとめが必要なもの)と個人応募型(個人で直接応募するもの)があります。

- 大学公募型では、奨学金申込書を所属学部・研究科の窓口へ提出してください。提出書類や提出締切については所属学部・研究科の担当部署に確認してください。
- 個人応募型では、東京大学を通さず個人で直接応募することとなります。

1) 3ヶ月以上の留学が対象の奨学金

| 奨学金・プログラム名 | 支援期間 | 金額・対象 | 申請先 |
|--|------------------------------|---|----------|
| *1 東京大学 海外派遣奨学事業 短期(3ヶ月～1年以内) 海外留学等奨学金 | 3ヶ月～1年以内 | 月額6～10万円 | 所属学部・研究科 |
| *2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～ | 28日～1年 | 月額12～16万円、留学準備金15～25万円、授業料等 | 所属学部・研究科 |
| (公財)KDDI財団 日本人留学生助成プログラム | 1～2年 | 月額20万円、大学院生 | 所属学部・研究科 |
| (公財)経団連国際教育交流財団 産業リーダー人材育成奨学金奨学生 | 2年または1年 | 学費、生活費等として年間450万円を一律支給 | 所属学部・研究科 |
| (公財)経団連国際教育交流財団 日本人大学院生奨学金 | 2年または1年 | 学費、生活費等として年間350万円を一律支給、大学院生 | 所属学部・研究科 |
| (公財)佐藤陽国際奨学財団 派遣留学奨学生 | 6ヶ月かつ2セメスター以上 | 月額8万円、渡航費25万円、交換留学一時金10万円 | 所属学部・研究科 |
| (公財)業務スーパージャパンドリーム財団 派遣留学奨学生 | 1年以内 | 月額15万円、2年生以上の学部学生 | 所属学部・研究科 |
| TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム | 1年 | 180万円、学部学生 | 所属学部・研究科 |
| 百賢亞洲研究院 AFLSP日本人学生交換留学奨学金 | 2セメスター以上(交換留学先大学に在学中の期間) | 年額12,500米ドル(中国・香港の指定大学への留学) | 所属学部・研究科 |
| *1 東京大学トヨタ高度人工知能人材育成のための海外留学奨学金 | 1年(場合により延長可) | 月額22万円、授業料(年額上限300万円)、人工知能分野での学修または研究 | 所属学部・研究科 |
| (公財)日揮・実吉奨学会海外留学奨学金 | 1セメスター以上1年以内 | 生活滞在費月額15万円、渡航費上限20万円、理工系(自然科学分野専攻)大学院生 | 所属学部・研究科 |
| (公財)トラスト未来フォーラム 海外留学支援奨学金 | 5ヶ月～1年以内 | 月額10万円、法学部に在籍している学生 | 所属学部・研究科 |
| *3 (独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(大学院学位取得型)「大学とりまとめ応募」 | 修士2年 博士原則3年 | 月額8.9～14.8万円、授業料(年額上限250万円) | 所属学部・研究科 |
| *3 (公財)吉田育英会 日本人派遣留学プログラム | 2年以内(審査の上、1年以内の延長あり) | 学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額20万円、扶養補助(該当者のみ)、往復渡航費、大学院生 | 所属学部・研究科 |
| *3 (公財)竹中育英会 海外留学奨学生 | 修士2年、博士3年 修士・博士合わせて原則5年以内 | 大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額200万円以内 | 所属学部・研究科 |
| (公財)阪和育英会 海外留学奨学生 | 原則1年以内(条件により6ヶ月以上2年以内) | 月額7万円、留学渡航準備金15万円、学部学生 | 所属学部・研究科 |
| (一財)アジア国際交流奨学財団 川口静記念 奨学生 | 1年 | 月額4万円 | 所属学部・研究科 |
| (公財)国際協和奨学会 日本人海外留学奨学生 | 2年以内 | 月額12万円、海外の大学の正規課程に進学希望する学生 | 所属学部・研究科 |
| (公財)イノアック国際教育振興財団 | 10ヶ月以上2年以内 | 月額10万円 | 所属学部・研究科 |
| (公財)平和中島財団 日本人留学生奨学生 | 2年以内 | 月額20万円、往復渡航費、大学院生 | 直接応募 |
| Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団-FUT!奨学金 | 1学期以上2年以内 | 学費、滞在費等、実情に合わせて幅広く支給 | 直接応募 |
| 日米教育委員会フルブライト奨学生 | 詳細はウェブサイトで確認 | 大学院留学プログラム、大学院博士論文研究プログラム、研究員プログラム、ジャーナリストプログラム、フルブライト語学アシスタント(FLTA)プログラムの5種 | 直接応募 |
| (公財)松下幸之助記念志財団 松下幸之助国際スカラシップ | 9ヶ月～1年 | アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属しての調査研究する者 | 直接応募 |
| *3 (公財)船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship | 原則2年間 | 情報科学、情報技術分野、経済、経営分野等で、Ph.D.取得を目指す学生 | 直接応募 |
| *3 (公財)中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生 | 修士課程:最長2年以内 博士課程:最長5年以内 | 月額20万円、支度金50万円(往路航空費含む)、復路航空賃、授業料(留学当初の2年間、年間300万円以内)、情報科学・生命科学・経営科学の分野で学位取得目的の留学 | 直接応募 |
| *3 (公財)伊藤国際教育交流財団 日本人奨学生 | 原則2年以内 | 生活費月額1,500～2,000米ドル相当の円貨、学費(年額300万円以内、往復旅費) | 直接応募 |

注)上記給付奨学金の他、(独)日本学生支援機構が実施する貸与奨学金もあります。日本学生支援機構 「海外留学の奨学金」 <https://www.jasso.go.jp/shogakukin/moshikomi/kaigai/index.html>

2) 3ヶ月未満の留学が対象の奨学金

| 奨学金・プログラム名 | 支援期間 | 金額・対象 | 申請先 |
|---|--------|-----------------------------|----------|
| *1 東京大学 海外派遣奨学事業 超短期(3ヶ月未満) 海外留学等奨学金 | 3ヶ月未満 | 月額6～10万円 | 所属学部・研究科 |
| *2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～ | 28日～1年 | 月額12～16万円、留学準備金15～25万円、授業料等 | 所属学部・研究科 |
| Friends of UTokyo, Inc.米国の大学での夏季プログラム/インターンに参加する日本学生への奨学金 | 夏季の数週間 | 約3,000米ドル 米国の大学での夏季プログラム等 | 直接応募 |

注) ●この一覧は2022年2月1日現在の情報です。支援内容は変更される場合があるので、最新情報はGo Global ウェブサイトを確認してください。●*1は東京大学独自の奨学金です。●*2は支援期間が28日～1年の奨学金のため、上記の3ヶ月以上と3ヶ月未満の両欄に掲載しています。●*3は学位取得目的に限定されている奨学金です。●諸外国の政府または政府関係団体による、その国・地域の大学等へ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイトを参照してください。●上記は、主な奨学金の例を記載しています。他にも特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、Go Global ウェブサイトを確認してください。

2) 支援者からのメッセージ

“Go Global”にチャレンジする東大生に社会が期待しています!

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取り組みには、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄附による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄附にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学の一つである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワークin南京(3月)②サマースクールin南京(8月)③東大×南大共同フィールドワークin東京(11月)④上級中国語研修(深思北京)から構成されていますが、実施については時節の状況を勘案して決定して参ります。

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長



今から400年前、世界人口は5億人余、その60%はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社(EIC)の設立と、1602年のオランダ東インド会社(VOC)の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダムは1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60%を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないのでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人材が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人材の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人材を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声



紅 優成
文科一類2年(進学先:教養学部国際関係論コース)

今年の南京サマースクールもオンライン開催でしたが、当初の期待をかなり上回る体験となりました。私は仲間との授業、交流会を大いに楽しみ、サマースクールはコロナ禍での大学生活に欠けていたことを多少なりとも提供してくれたように思います。とくに、南京大の学生は交流会の準備を万全に行ってくれ、おもてなしの気持ちが強く感じられました。たとえば、開会式の時に彼女らはライブ中継でキャンパスを案内してくれたのですが、「なんとか対面に近い体験を東大生にさせてあげよう」という心遣いは嬉しいものでした。今、私は南京サマースクールでできた人のつながりを活かし、二人の東大のメンバーとともに、サマースクールに参加していなかった日中の学生にも範囲を広げて日中交流会を主催しています。私が交流会を主催しようと考えたのは、国際交流の楽しさをより多くの学生に知ってもらいたいという思いと、草の根で知日派・知中派の増加に貢献したいという思いがあったからです。大げさですが、この夢の実現のために、これからも交流会の窓口を大きくしつつ開催していきたいと考えています。試行を兼ねた第一回の交流では宣伝先を東大と南大に限定した(応募資格は限定せず)のですが、多くの学生にご応募をいただき、楽しんでいただけたようです。さいごに、貴重な体験の機会を与えてくださった東大と南京大の先生方、フレンドリーにもてなしてくれた南京大の学生方、積極的な学習仲間となってくださった東大の皆さん、そしてご支援していただいた株式会社ゼンショーホールディングスに感謝申し上げます。

Go Global奨学金「Fung Scholarships」支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザー・ボードのメンバーの一人であるVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的としたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に6,000名に達しています。日本では東京大学の学生が初めてその仲間入りをしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が、LLICプログラム(p16参照)や全学交換留学(p6-11参照)に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や本学との協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung
Chairman, Victor and William Fung Foundation
Group Chairman, Fung Group



Fung Scholars Programme:

With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholars Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and Fung Fellows for postgraduates. They are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential.

Since the launch of the Fung Scholars Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 6,000 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities.

More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.

"We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars and Fung Fellows are able to expand their network with other Fung Scholars and Fung Fellows worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community."



東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています。

詳細はこちら



<https://www.fungfoundation.org/>

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東大生の“Go Global”を支えて頂いています。

アメリカ留学の強い味方!“FUTI”(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会)は、東京大学の国際化を支援するために卒業生を中心に設立された、アメリカニューヨーク州登録のNPO団体です。ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校の尾島巖卓越教授(1968年理学部卒)が理事長を務め、卒業生や企業などの寄附をもとに奨学金給付や研究助成を行っています。FUTIの奨学金は、下記の2つの柱から成っています。

●FUTI奨学金(p43参照):

アメリカへ夏季に留学する学生を対象とする奨学金です。2019年度には8名がこの奨学金を受給し、アメリカの大学でのサマーコースに参加しました。コロナ禍でサマーコースが中止となった2020・2021年度は、留学に代わる特別処置で、2020年度は3名、2021年度は5名の母国でオンライン授業に参加する方が支援を受けました。奨学生は、「ハイレベルな授業を受けつつ、短期間のうちに多様なバックグラウンドを持つ人々に出会えることがこのプログラムの魅力の一つ」といった感想を寄せています。

●米国伊藤財団—FUTI奨学金(p43参照):

アメリカへの1セメスター(2クォーター)以上の中長期留学を奨学金給付の対象とした奨学金です。この奨学金は、伊藤雅俊氏(株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長)が前途有為な学生を支援するために設立した米国伊藤財団からの支援を受けて、2016年度にスタートしました。2019年度には9名がこの奨学金を受給しました。2020年度はコロナ禍の影響で奨学金受給者は4名のみとなりましたが、2021年度はその分、大盛況となり、11名が奨学金を受給しました。また、活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方や、経済的に特別な困難がある方を歓迎する奨学金(IF育英奨学金)もあります。

各奨学金の選考は、学業成績、英語成績、エッセイ、リーダーシップ実績、推薦状に基づいて行われます。部活動、ボランティア活動など、大学の正課以外でもリーダーシップを発揮してきた方を評価します。(詳細はFUTIのホームページのFAQを参照)。FUTIのネットワークは、奨学金の給付以外の面でも皆さんの留学生活のサポートになるでしょう。アメリカへの留学を考えている方は、ぜひ一度ホームページをご覧ください。



UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
留学レポートはFUTIのウェブサイトをご覧ください。

詳細はこちら



<http://www.todaitomonokai.org/>

3. 留学における学籍・単位認定

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届等）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

●「留学」：留学の手続きをとる

●「休学」：休学の手続きをとる

上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届等の手続きを行ってください（例：夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合等）。

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右の表を参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」または「研究指導の委託」の手続きが必要です。
※留学先大学で取得した単位の東京大学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

| | 「留学」の手続きによる場合 (交換留学) | 「留学」の手続きによる場合 (交換留学以外) | 「休学」の手続きによる場合 |
|---------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 留学先大学での「単位」取得 | 可 | 可 | 可 |
| 留学先大学での「学位」取得 | 不可 | 不可 | 場合により可 |
| 留学先大学での授業料 | 払わない | 払う | 払う |
| 東京大学での授業料 | 払う | 払う | 払わない(ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要) |
| 修業年限 | 算入される | 算入される | 算入されない |
| 東京大学での単位認定 | 可(ただし、所属学部・研究科が承認した場合) | 学部・研究科により異なる | 学部・研究科により異なる |

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則(学部学生)

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学

第14条の2

学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学^{注釈1}することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。

2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定

第14条の3

学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続

第14条の4

留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書^{注釈2}を学部長に提出しなければならない。

2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い

第14条の5

第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。

3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈

1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当部署で確認すること。

2 「留学許可願」を担当部署に提出する。

| |
|--|
| 留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当部署に事前に相談し確認してください。 |
|--|

※大学院学生については以下を参照してください。

●東京大学大学院学則 第28条(留学)

●東京大学大学院専門職学位課程規則 第23条(他の大学院における授業科目の履修等)

※2022年2月1日現在の情報です。

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

※本ページの情報は、2022年2月1日現在の情報です。※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当部署で確認してください。

学部

| | |
|------------|---|
| 法学部 | 法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合においては、審査の上、随意科目として認定する。 |
| 医学部 | 単位認定を希望する場合には、事前に学務チーム(学部担当)に相談すること。なお、医学科は単位制ではない。 |
| 工学部 | 当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科が必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。 |
| 文学部 | 外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合および休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。 |
| 理学部 | 単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。 |
| 農学部 | 単位認定を希望する者は、事前に学生支援チーム(学部学生担当)に相談すること。 |
| 経済学部 | 学生交流協定に基づく交換留学派遣の場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教務委員会・教授会で審査の上、適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、選択科目として単位が認定され、卒業単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。 |
| 教養学部(前期課程) | 外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で説明を受けること。 |
| 教養学部(後期課程) | 東京大学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請し、学部教務委員会・後期運営委員会において適切と判断された場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。 |
| 教育学部 | 原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、東京大学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。 |
| 薬学部 | 単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。 |

大学院

| | |
|------------|--|
| 法学政治学研究科 | 〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。 |
| 医学系研究科 | 外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り)および留学の場合に、修士課程および博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、学務チーム(大学院担当)へ相談すること。 |
| 工学系研究科 | 外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位として認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間および採点基準を考慮して、東京大学の基準で単位数および成績の換算をする(そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない)。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科の単位には認定されない。 |
| 人文社会系研究科 | 留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、修士課程および博士後期課程を通して10単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。なお、休学の理由は「海外修学」に限る。 |
| 理学系研究科 | 外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程および博士後期課程を通じて、15単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続きに関する指示を受けること。 |
| 農学生命科学研究科 | 所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。 |
| 経済学研究科 | 学生交流協定に基づく「留学」の身分により科目履修を目的として派遣された場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教育会議にて適切と判断された場合、本研究科の基準で単位数を換算の上、単位が認定され、修了単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。 |
| 総合文化研究科 | 留学または休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位および外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を日本国内で履修し取得した単位は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位を超えない範囲で本研究科の授業科目および単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、総合文化大学院チーム(GPEAK生は国際化推進チーム)で必要な手続きをとること。授業科目および単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目および単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。 |
| 教育学研究科 | 留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目および単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目および単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて10単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。 |
| 薬学系研究科 | 単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。 |
| 数理学研究科 | 単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。 |
| 新領域創成科学研究科 | 外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り)および留学の場合に、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務チームへ相談すること。 |
| 情報理工学系研究科 | 当該専攻の審査により、修士および博士後期課程を通じて15単位を限度として修了単位に認定することができる。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間および採点基準を考慮して、東京大学の基準で単位数および成績の換算をする(そのまま所属研究科と同じ単位数として換算されるとは限らないので注意すること)。 |
| 学際情報学府 | 留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程および博士課程を通じて、10単位を超えない範囲で、認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。 |
| 公共政策学教育部 | 公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。 |

4. 語学能力検定試験

留学する場合、留学先大学や東京大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあります。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS (Academic Module)のスコアの提出が必要です。TOEICや英検(実用英語技能検定)は日本の就職活動等では広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

| | TOEFL iBT | IELTS (Academic Module) |
|---------|---|---|
| 概要 | 米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国と地域の11,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。2020年より、自宅で受験できるTOEFL iBT Home Editionも開始。 | 英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい場合はAcademic Moduleの結果が必要となる。 |
| スコア | 0~120(1ポイント刻み) | 1.0~9.0(0.5ポイント刻み) |
| 試験日 | ほぼ毎週末、年間45回以上(テスト会場受験の場合) | 東京では毎月3回程度実施 |
| 受験料 | US \$245(通常申込時) | 25,380円 |
| スコア有効期限 | 2年間 | 2年間 |

関連ウェブサイト: TOEFL <https://www.ets.org/jp/toefl> IELTS <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」(p31参照)では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座等の有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって、必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定(例:実用フランス語技能検定試験等)は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイト等を確認しましょう。

(英語以外の語学能力試験例)

| 言語 | 語学能力試験 |
|-------|--------------------------------|
| 韓国語 | TOPIK/KLAT |
| スペイン語 | DELE |
| 中国語 | HSK |
| ドイツ語 | TestDaF/Goethe-Zertifikat/Telc |
| フランス語 | DELFLDALF/TCF/TEF |

5. 安全と危機管理

海外では、慣れない場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺等、様々な被害に遭う可能性が高くなります。海外に留学するにあたっては、「自分の身は自分で守る」という意識と、そのために自ら情報を収集し、危機を回避することが鉄則です。

東京大学では学生および教職員のための「海外渡航危機管理ガイドブック」を作成しています。海外に渡航する学生は必ず熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。

海外渡航危機管理ガイドブック

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-safety.html>

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください(健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防(ワクチン)接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行等)。留学前には、外務省「海外安全ホームページ」を必ず確認してください。国・地域別の「危険情報」「感染症危険情報」、犯罪・事件・テロについての情報や、渡航・滞在における注意事項を発信しています。また、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施していますので活用してください。

外務省海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

トラベルクリニック

<https://www.hc.u-tokyo.ac.jp/guide/internal-medicine/travel-clinic/>

所属学部・研究科での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。

現地で天災、感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、「在留届」の提出が必要です。万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込

まれた場合、日本国大使館や総領事館は、この「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。

また、3ヶ月以内の滞在では、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録しましょう。同省の専用サイトに必要事項(旅行日程・滞在先・連絡先)を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html>

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります(グローバルキャンパス推進本部担当のプログラムについてはこれに該当します)。

また、留学先大学等から指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて加入が必要です。

※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意してください。

海外安全危機管理サービス「OSSMA, Overseas Student Safety Management Assistance(オスマ)」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日、日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となり、希望する場合加入できます(一部プログラムでは加入が参加の条件となります)。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html>

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。その他、プログラムの担当者、所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。



6. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えると思われるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベント等、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール(企業の採用情報公開の時期、面接等の選考開始時期)についてキャリアサポート室等を利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくよこと

- 就職活動のスケジュール
- 帰国後の履修・卒業計画
- 外資系・ベンチャー企業等独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

- 留学先の大学や都市のキャリアフォーラム
- 各種キャリアガイダンス(キャリアサポート室主催、留学経験者対象)
- 海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して留学経験者や留学担当者等から話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。

留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定等それぞれの事情にあわせて、自分の就職活動を考えてみましょう。

本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学か進学か迷ったときや、企業分析や自己理解等の相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします(ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません)。OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。

キャリア相談およびOBOG名簿の閲覧は予約制ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

※キャリア相談は、オンライン(ZOOM)で対応しています。

最新情報はキャリアサポート室ウェブサイトをご確認ください



<https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/>

学生体験記

氏名：小川 満輝さん
所属・学年(留学開始時)：農学部3年
留学先大学：ウォーリック大学
留学期間：2019年1~6月(6ヶ月間)
内定先の業界：総合系コンサルティング



濃密で刺激的な経験、 海外就活のメリット

留学中の就活は、企業が独自に開く選考会とキャリアフォーラム(CF)の2つを中心に進めることとなります。情報収集は主にFacebookやCFのホームページ、就活エージェントが現地大学で開くセミナーなどで行いました。Webテスト対策本などは日本から持参しておくといえます。国内就活と異なる点は、日英両方のCVおよび面接対策が要されることです。私は現地学生に不自然な英語表現が無いか確認してもらっていました。慣れない大学生活やその他活動と並行しての就活対策は苦勞もありますが、海外就活ならではのメリットも多く存在します。特に感じたのが、就活生同士の交流の濃密さでした。同時に留学し、かつ就活を進める学生同士、バックグラウンドに共通項も多く互いに大きな刺激になります。帰国後も持続するような密な人間関係が構築できます。また、企業の採用担当者との距離感も近いと感じました。応募者が国内より少ない分、深い話や質問ができる場面が多いです。当然、短期間で選考が進み内定まで辿り着けることも大きな利点です。インターンの選考枠もあるので、帰国後に就活を続ける人にとっても面接慣れの場としてとても有用だと思います。

学生体験記

氏名：小泉 秋理さん
所属・学年(留学開始時)：文学部4年
留学先大学：ストラスブール大学
留学期間：2018年8月~2019年6月
(11ヶ月間)
就職先の業界：医療系メーカー



就活は社会のためじゃなく 自分のためにする

私は学部3年時のインターンで単純作業を任せられた時、日本での就職ではやりたいことを仕事にするのは難しいのではないかと、そこで仕事が自分の人生の軸になるのか不安になりました。そして留学すればその後の人生の自分の軸になって支えてくれるような経験ができるのではないかと、思い留学しました。フランスの人は自分のために生きて自分の尺度で社会に振り回されず進路選択して、私は日本で世間体を気にして就活していた自分に気づかされました。そこでもっと自分のために生きようと肩の力が抜けました。またヨーロッパで働く人に触れるうちに日本の雇用形態や労働条件の特殊性に気づかされ、仕事以外の時間を持てる職種に就きたいと思いがキャリア選択に影響しました。私は留学時に4年で就活では不利な状況でしたが、近年は留学経験者への配慮・優遇をする企業も出てきていますし、帰国後の夏採用も拡大しつつあるので日本の新卒一括採用というシステムを理由に留学を諦めることはないと思います。留学という海外で勉強だけに集中できる贅沢な経験は学生のうちでないとなかなかできないと思うので、迷っているなら行くべきだと思います。

7. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や短期の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供等を行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院は、留学期間は異なりますが、大きく分けてGraduate Schoolと、Professional Schoolの2つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、LawやBusinessに代表される Professional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。

大学院レベルで提供される学位は、修士号(Master's Degree)と博士号(Doctoral Degree or Ph.D.)があります。

修士課程は、通常1~2年間の課程です。講義の履修だけで修了できるプログラム、修士論文を課すプログラム等、その形態は大学や学科によって様々です。

博士課程は決まった年限を設けていないことが多いですが、概ね3~5年程度の研究期間を必要とします。修士号を必要とするプログラム、修士課程を経ずに直接出願可能なプログラムがあり、前者は修士課程で取得した単位を用いることができる場合もあります。後者

は修士課程・博士課程が一体となっているもの、修士号の取得をスキップするもの等、状況や希望に合わせて進路を選べるプログラムも存在します。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

● Go Global ウェブサイト・ガイドブック

海外大学院留学プログラムに関する情報を随時紹介しています。また本ガイドブックの「留学にかかる費用と奨学金」(p42-43参照)で大学院留学に関する奨学金情報も提供しています。

● 説明会等の大学院留学関係イベント

Go Global ウェブサイトやSNS(p40参照)で、海外大学や各国大使館等が主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

UT-OSAC (Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo)

東京大学の卒業生を中心とした団体であるUT-OSACでは、米国大学院学生会と協力し、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。 <http://gakuiryugaku.net>

ウェブサイトへアクセス



海外大学院留学説明会主催者から

南出将志

(2013年工学部社会基盤学科卒業 2014年工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了、2018年ペンシルバニア州立大学気象学部博士号取得 工学系研究科社会基盤学専攻助教/NASAジェット推進研究所外部研究員を経て、現在は東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻助教。)

私たちは海外大学院留学を就職、進学に次ぐ第三の選択肢と考えています。これは日本での「既定のコース」とは異なるためハードルが高く、あまり身近でない選択肢かもしれません。しかし、その先には刺激的で数々の体験と、大きく広がる世界観があなたを待っています。年2回(夏・冬)の説明会開催時には、世界トップクラスの大学院から多様な留学生や卒業生、教職員を講演者として招き、海外の大学院への出願方法や、利点、欠点、実際の生活の様子等を紹介しています。特に近年は、オンラインでの配信等、多様な形式の説明会を開催しています。留学を通じて世界で勝負してみたいみなさん、ぜひ上記の米国大学院学生会ウェブサイトをご覧ください。



大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、米国やヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」等を求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出求められるもの等は、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイト等を直接確認しましょう。

- GPA: Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
- 英語のスコア: TOEFLやIELTSが該当します。特に米国の大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、米国のほとんどの大学院ではGREの受験が求められます。
- 推薦状: 計3通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自分の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
- エッセイ: 志望動機や、自分の研究での強み等をまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
- その他: 研究業績(インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文等)や、外部奨学金等を持っていると高く評価されます。また、事前に受験先(指導教官の候補等)に連絡を取り、出願の意思表示をすると共に、自分の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。最終的な可否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業(修士)研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコア等の準備を整えておきましょう。

8. よくある質問

【留学準備】

Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか？

A. (全学交換留学等長期留学の場合)留学のおよそ1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
(サマープログラム等短期留学の場合)グローバルキャンパス推進本部が担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますが、その年の1～2月および4～5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2～3月に応募が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。

【学籍・単位】

Q. 1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか？

A. 交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部を確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部を確認してください(p46-47参照)。

Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか？

A. 留学時に休学から復帰していれば応募可能なプログラムもありますが、必ず所属学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか？

A. できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で事前に説明を受けるようにしてください。

Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか？

A. 語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイト等でよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。

Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか？

A. 全学交換留学の派遣候補者は、所属学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等によりグローバルキャンパス推進本部で総合的に選考審査され、決定されます。

Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか？

A. 東京大学では多くのプログラムで、自分の所属学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科で異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかかりますか？

A. (交換留学の場合)行く地域によりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができる場合もあります。渡航費や生活費等は必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です(p42-43参照)。
(サマープログラム等短期留学の場合)費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(p14-16参照)。

【その他】

Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか？

A. 応募の倍率はプログラムによって大きく異なり、情報公開していない場合も多くあります。全学交換留学やUC派遣プログラムの場合は、Go Global ウェブサイトの各プログラムのページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集まり倍率が高くなる留学先やプログラムもあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。

Q. 現在申し込みもと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか？

A. まずは東京大学が公開している募集要項、留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバルキャンパス推進本部が担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。派遣前のオリエンテーション等で過去の参加者と情報交換できる場合もあります。

留学体験記にアクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

Q. 短期留学プログラム等に参加したいのですが、東京大学の授業や試験期間と時期が重なっている場合はどうなりますか？

A. 海外の大学は6～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程等を応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時の所属学部・研究科の判断によります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科の担当部署に事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。

Q. 留学について相談したいのですが、どこで相談に乗ってもらえますか？

A. 現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。

その他、留学に関する全般的な質問・一般的な質問は、Go Globalセンターサポートデスクで受け付けています(p41参照)。

また、特定の学問分野の留学事情等については、所属学部・研究科の担当部署や指導教員、先輩等に相談してみるのがよいでしょう。

Go Global ウェブサイトでは、よくある質問を随時更新しています



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-faq-index.html>



[編集・発行] 2022年4月1日／東京大学グローバルキャンパス推進本部
[E-mail] studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp [Web] <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>